

平成28年度政策・実務研修「子どもの貧困対策」  
【事例紹介】足立区の子どもの貧困対策



平成28年10月5日

足立区子どもの貧困対策担当課長 岩松 朋子



# 東京都足立区

23区の最北東に位置し、江戸四宿として栄えた“千住”を有するまち

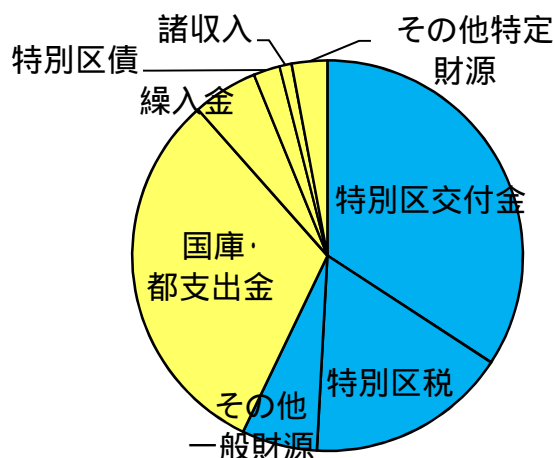


**面積** 53.25km<sup>2</sup>  
**人口** 678,623人  
**世帯数** 329,506世帯

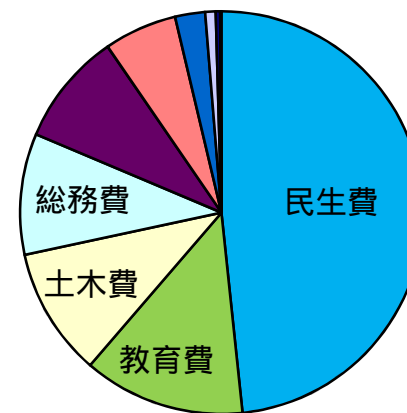
人口、世帯数共2016.1.1現在

## 財政規模

28年度当初予算



歳入 総額 2,730億円



歳出 総額 2,730億円

# 固定化するマイナスイメージ

# 他区から見た足立区のイメージ

- スウェット、ジャージで出歩いている人が多い。
- 若者がコンビニの前でたむろしている。
- ニュースで流れる事件発生場所で、足立区の名前をよく聞く。
- 自分は大田区(田園調布)に住んでいるが、足立区は治安が悪いと思う。
- 足立ナンバーの車は、怖い人が乗っていたり、車高が低いものが多い。

# 4つのボトルネック的課題

( = 克服しない限り区内外から正当な評価が得られない  
根本的課題)

## 治安

- ・刑法犯認知件数が23区ワースト1
- ・「美しいまちは安全なまち」を合言葉に、“ビューティフル・ウィンドウズ運動”に取り組む

## 学力

- ・小・中学校の学力テスト結果 23区で低位
- ・基礎学力の定着を目指した取り組み

## 健康

- ・区民の健康寿命が都平均より2歳短い
- ・総花的な健康対策から、糖尿病対策に特化

## 貧困の連鎖

- ・生活保護・就学援助受給者が多く、貧困が子どもたちに“連鎖”

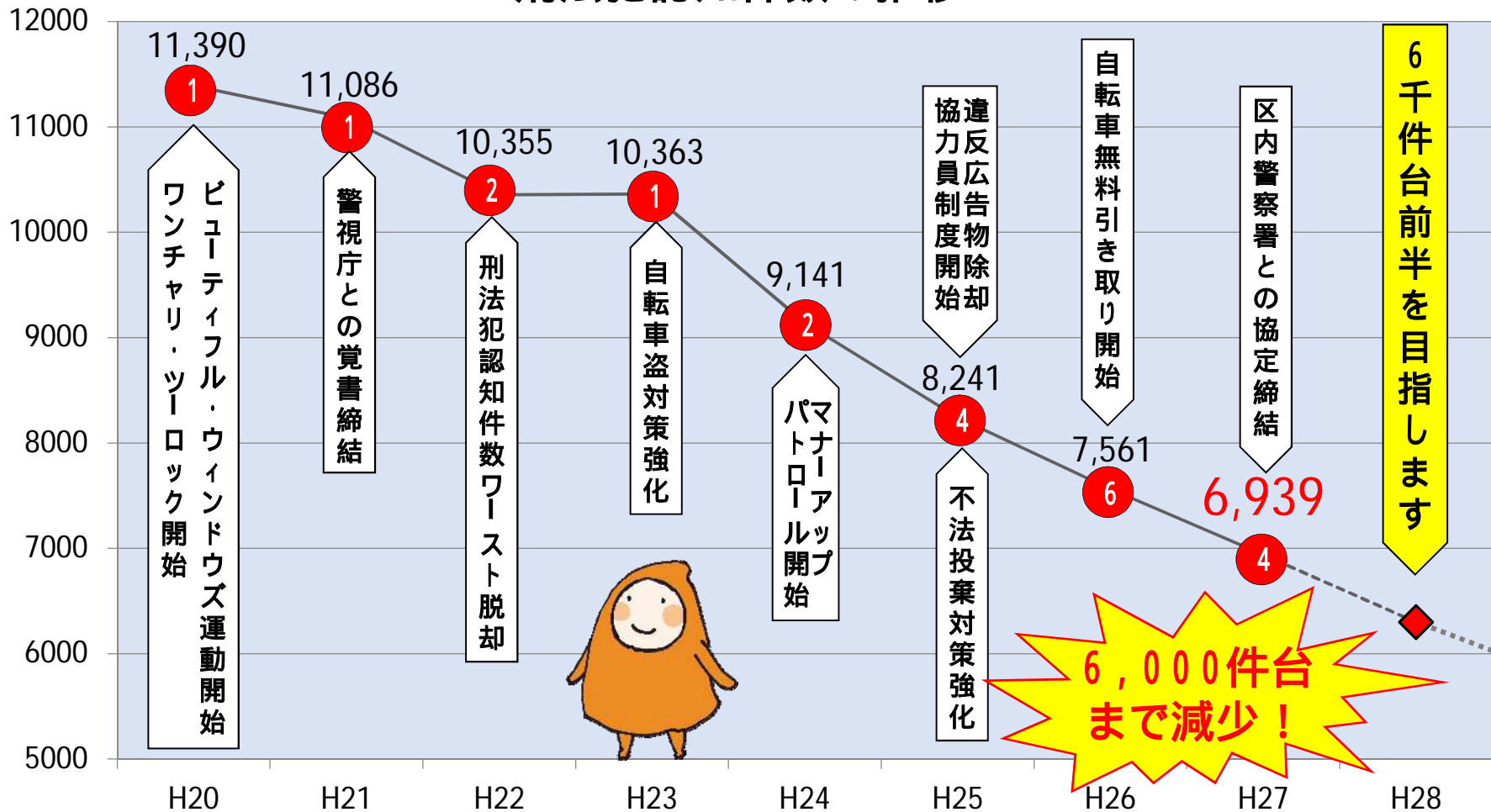
# 治安

H22年比

## 減少数・減少率23区中1位

(件)

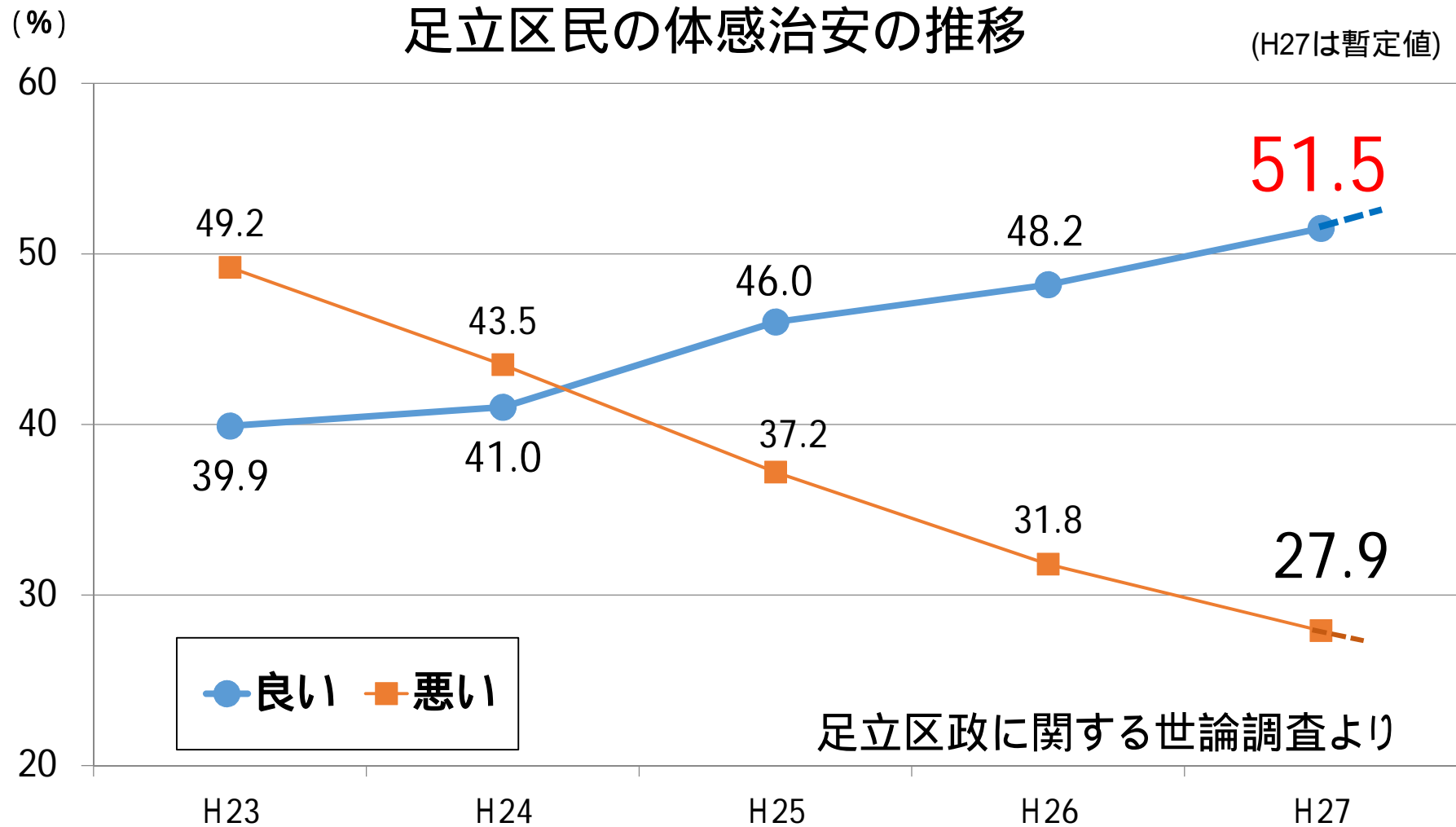
### 刑法犯認知件数の推移



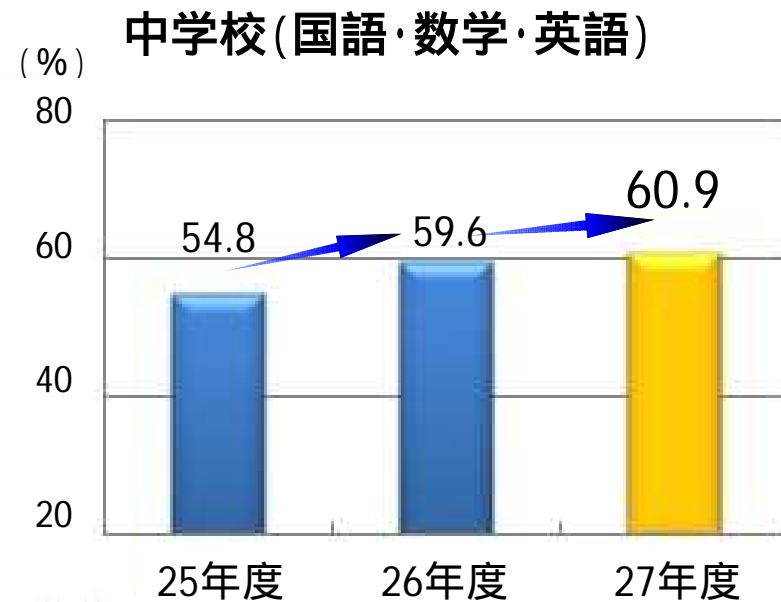
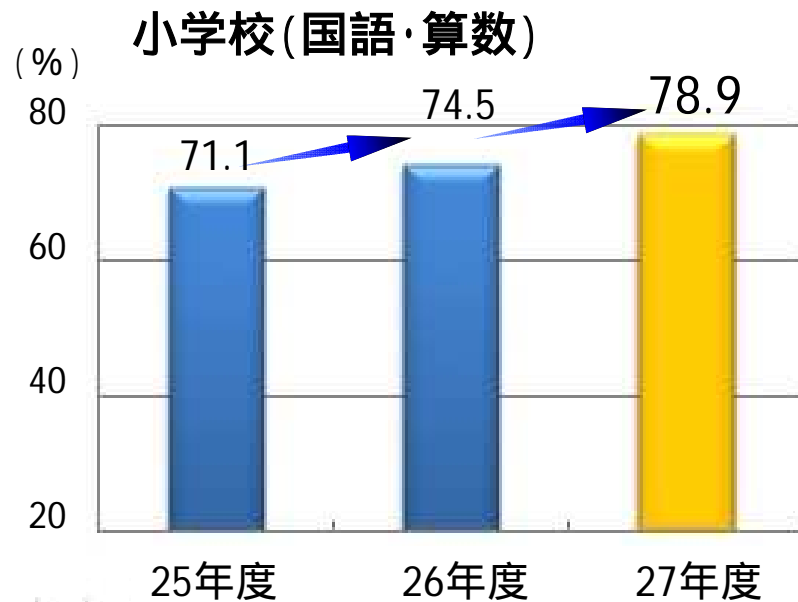
内の数字は都内順位(下位順)

件数:警視庁提供<sup>6</sup>

## 区民の体感治安が大幅改善



## 学力調査の結果に取組み成果の現れ



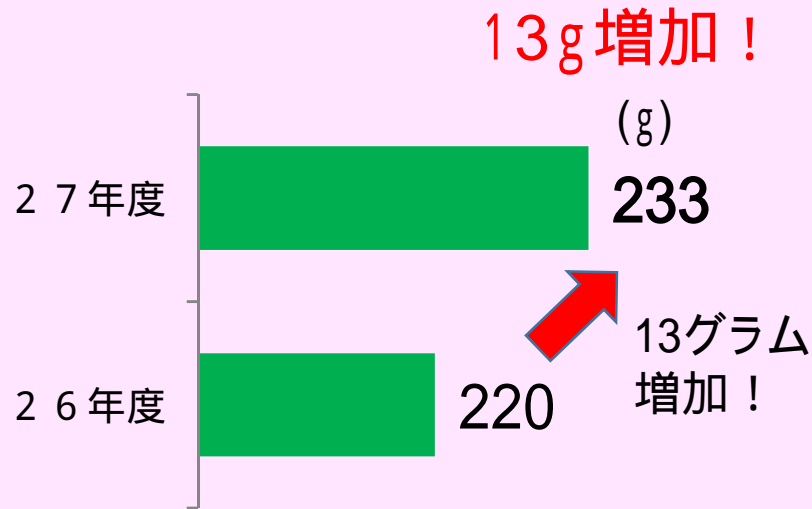
区学力調査の結果、正答率70%以上の児童の割合(小学校)、正答率60%以上の生徒の割合(中学校)が向上



# 区民の野菜摂取量が増加

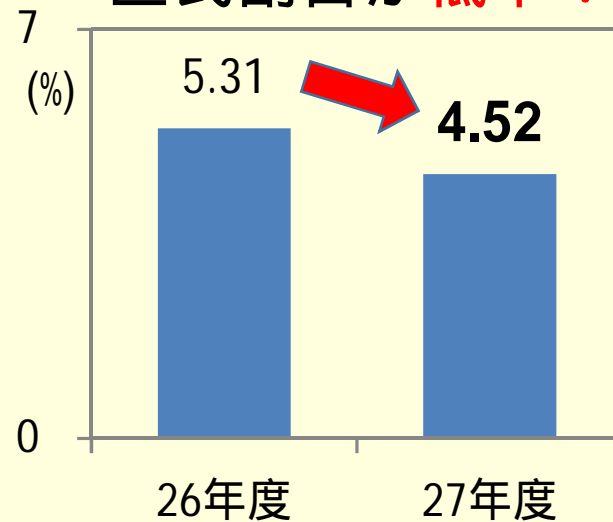
野菜を食べやすい環境づくり

区民の推定野菜摂取量



糖尿病の重症化を防ぐ

HbA1c値7%以上の区民割合が低下！

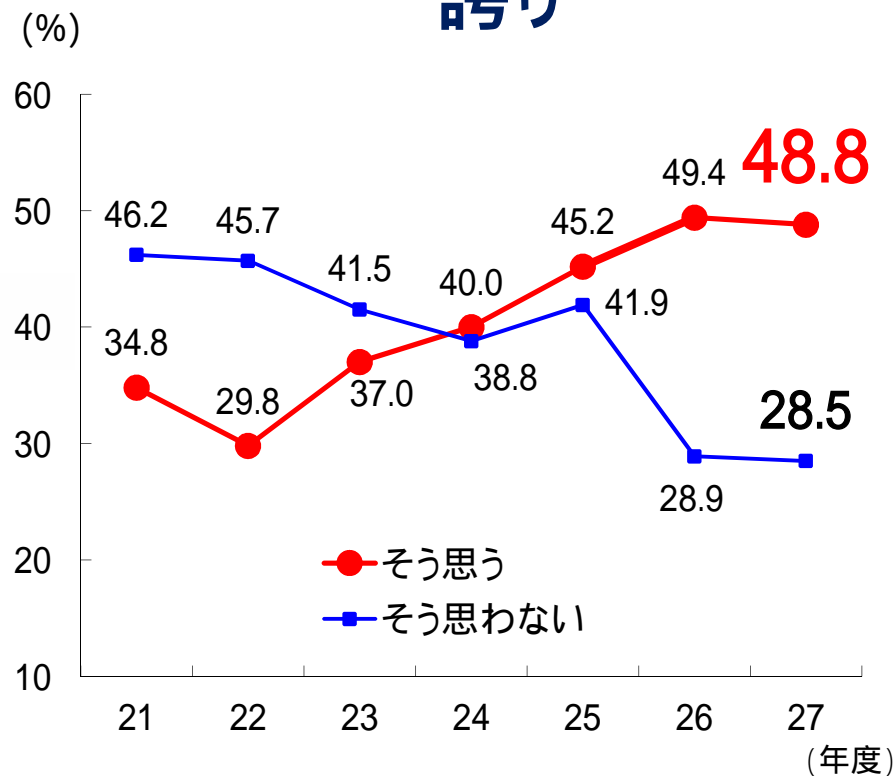


平成27年度世論調査より

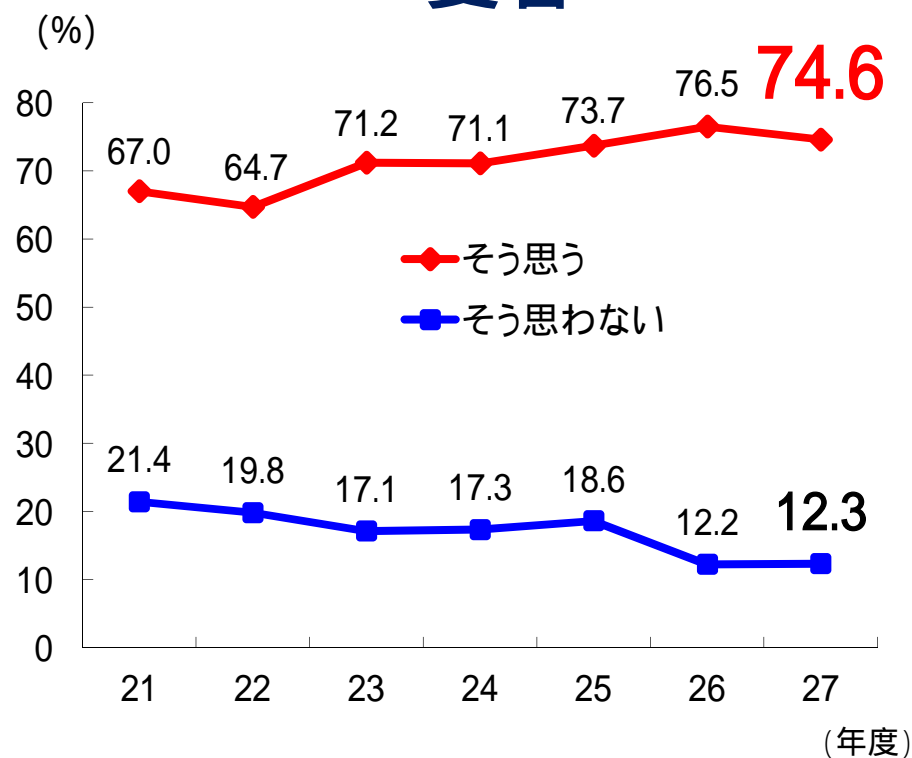
2人に1人は区に誇り

4人に3人は区に愛着

### 誇り



### 愛着



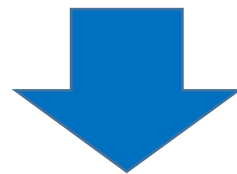


根底にある共通の原因

「**貧困の連鎖**」を断つ

||

次代を担う子ども支援



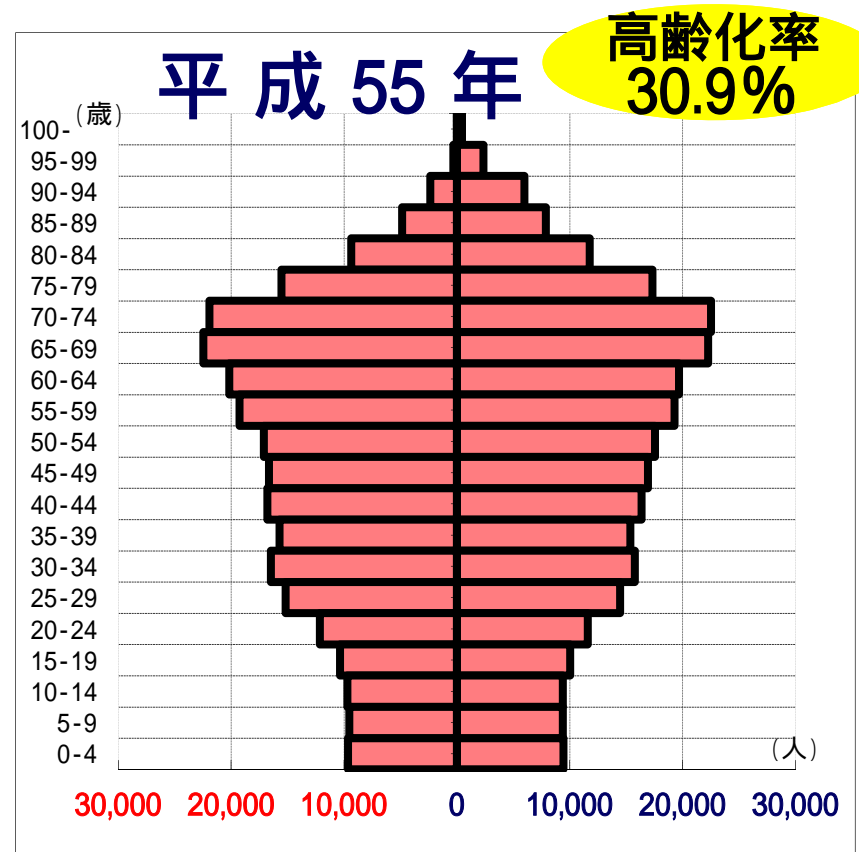
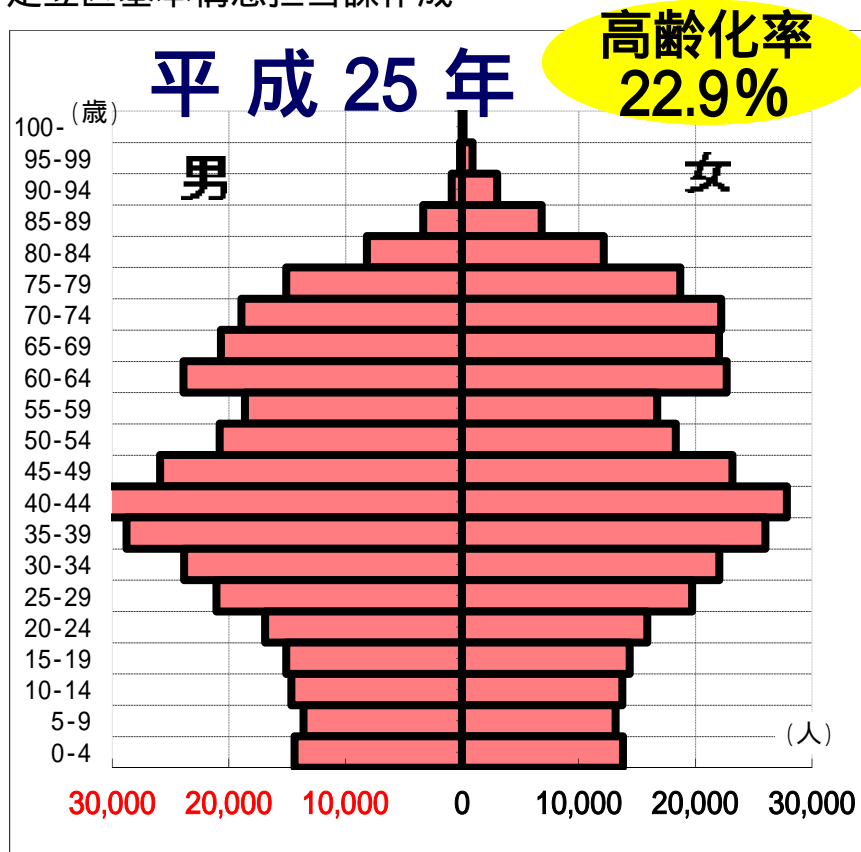
**活力**にあふれ **進化**し続ける **足立**

# 足立区の現状

# 今後の人口推計(高齢化・年齢別人口の推計)

足立区基本構想担当課作成

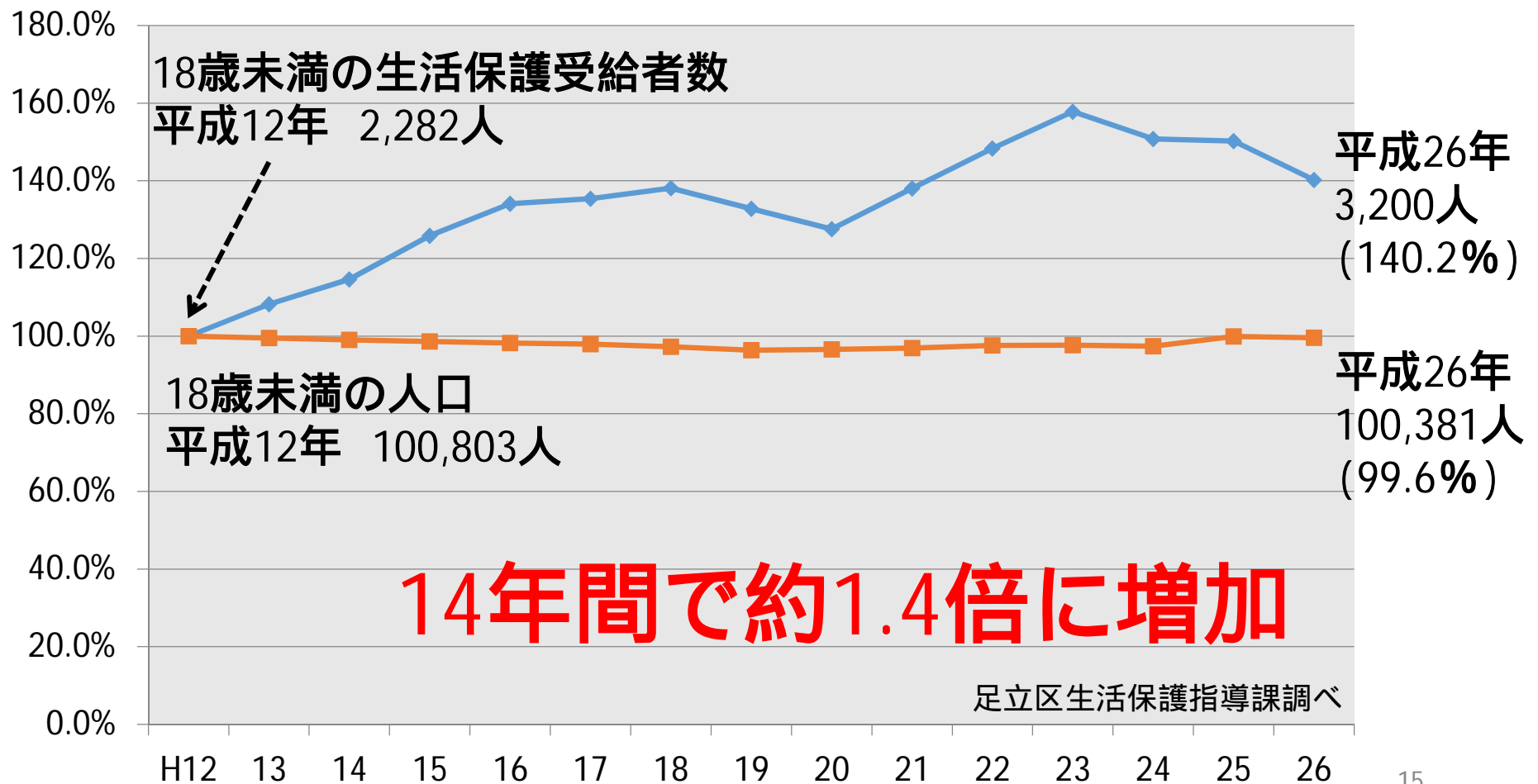
各年1月1日推計



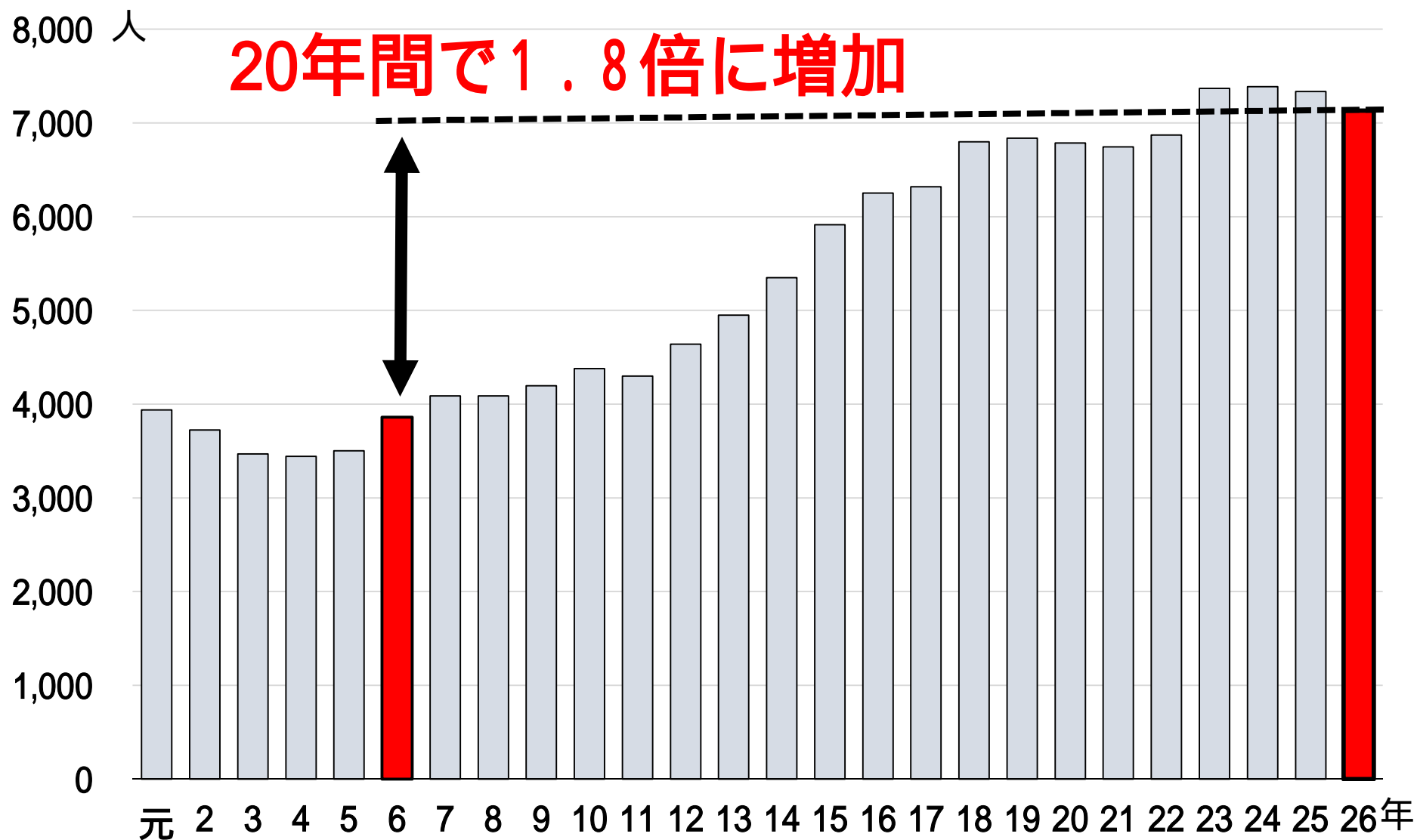
現役世代一人ひとりにかかる負担が増していく中、子どもの貧困は足立区の将来に関わる切実な問題である。

# 平成12年を100%とした場合の 足立区の18歳未満の人口及び生活保護受給者数の推移

足立区の18歳未満の人口がほぼ横ばいで推移する中、  
生活保護受給者数は増加している。

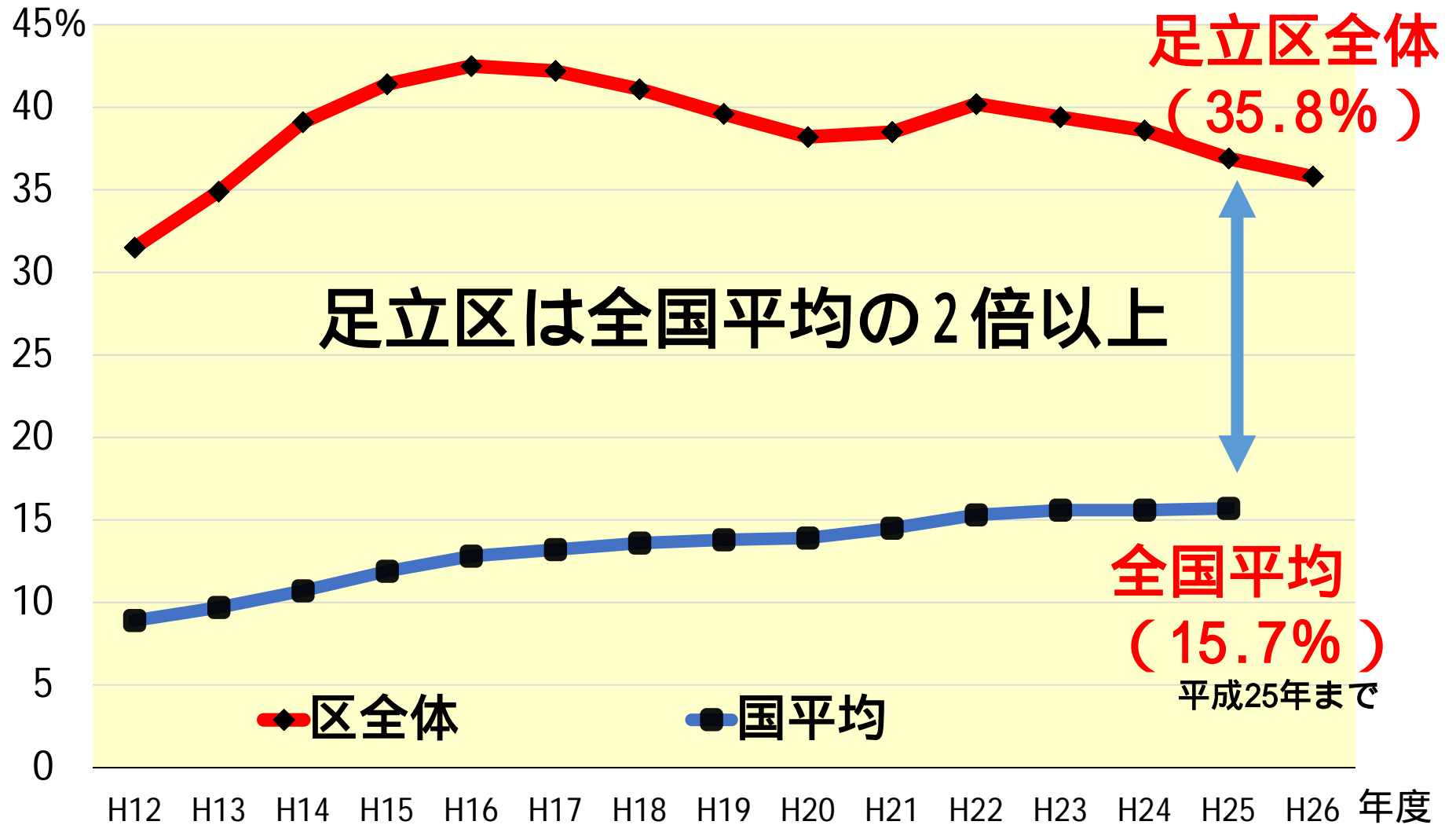


# 児童扶養手当受給者数の推移





# 就学援助率の推移

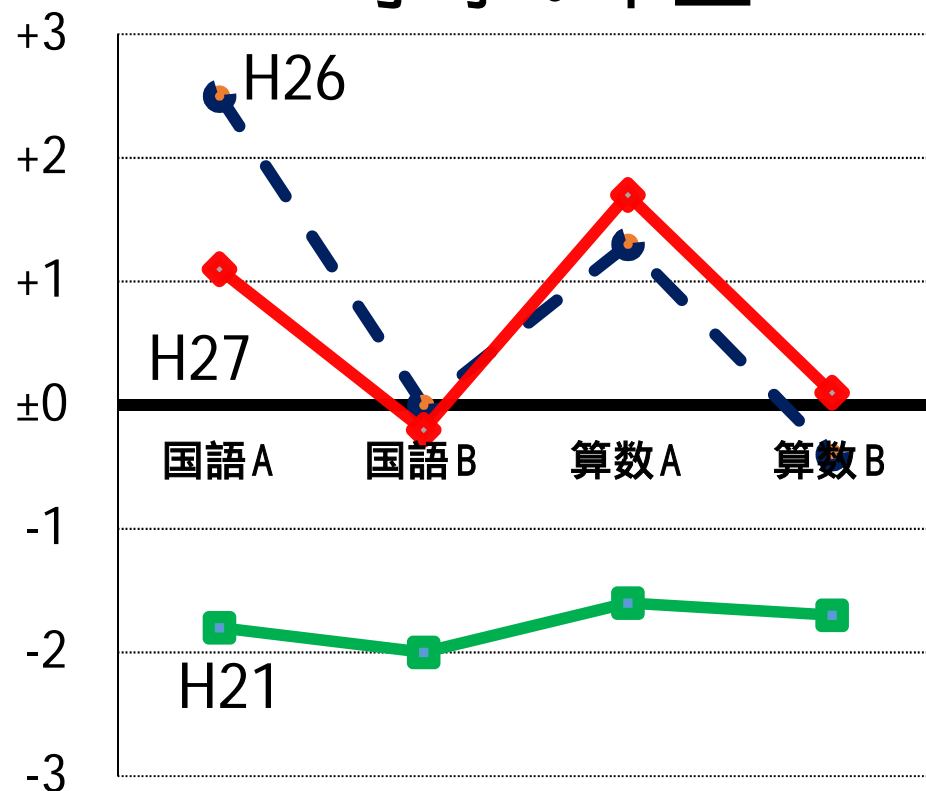


足立区学務課調べ

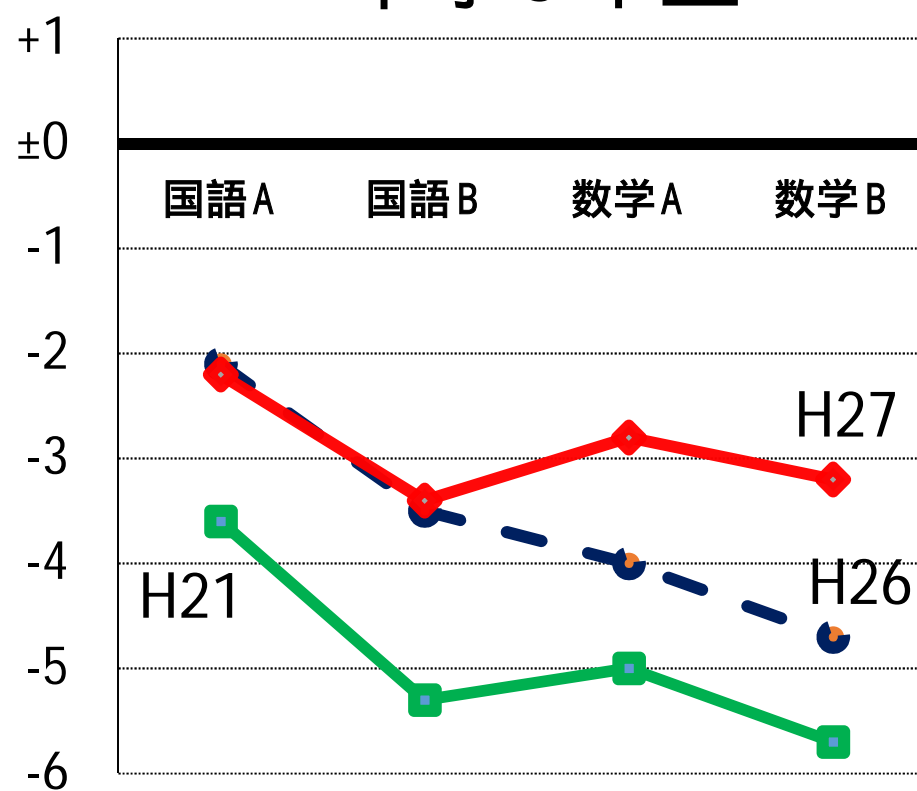
国平均及び都平均(H19以降)は文部科学省よりデータ提供 H25まで

# 全国学力・学習状況調査 足立区平均正答率と全国平均との差

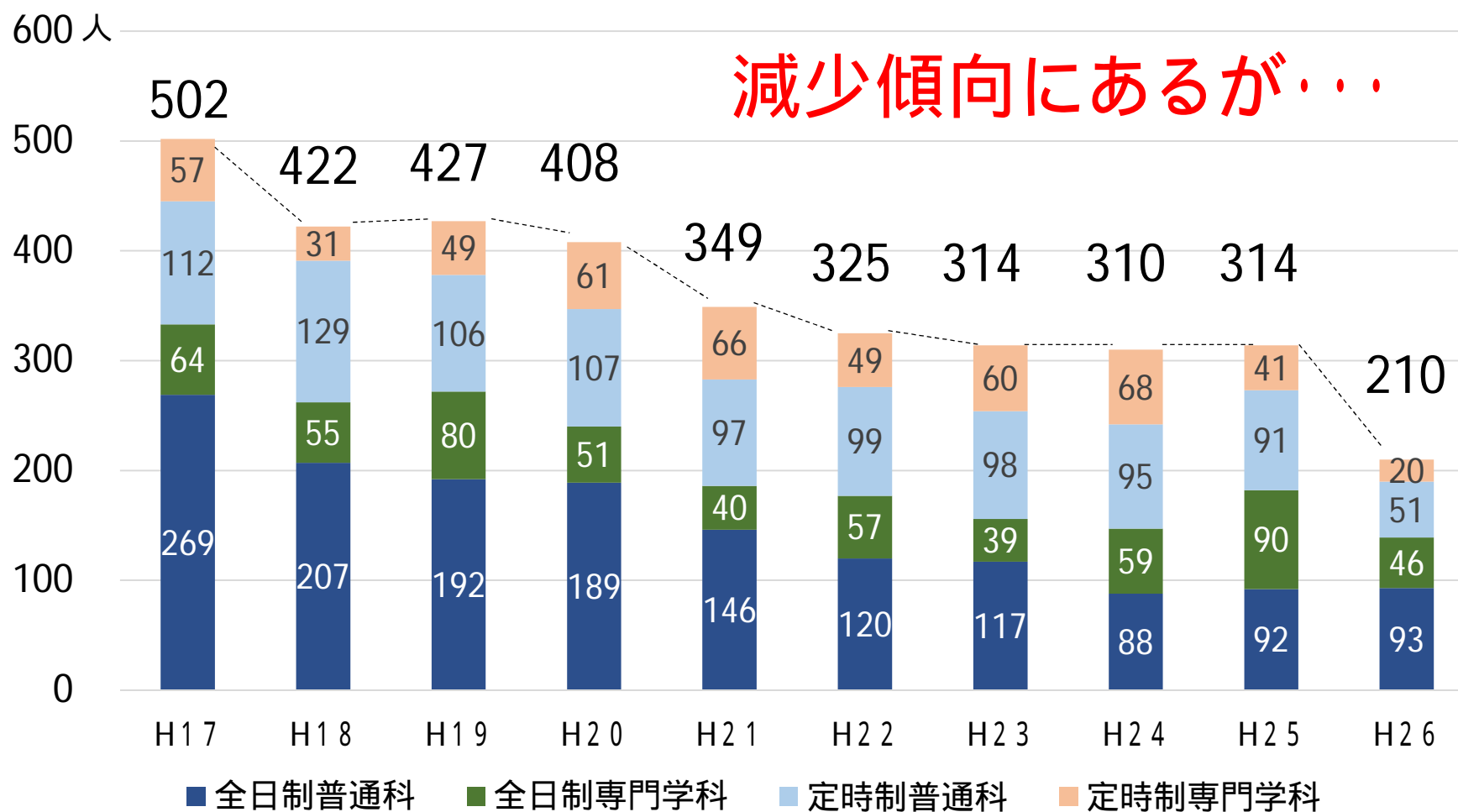
## 小学6年生



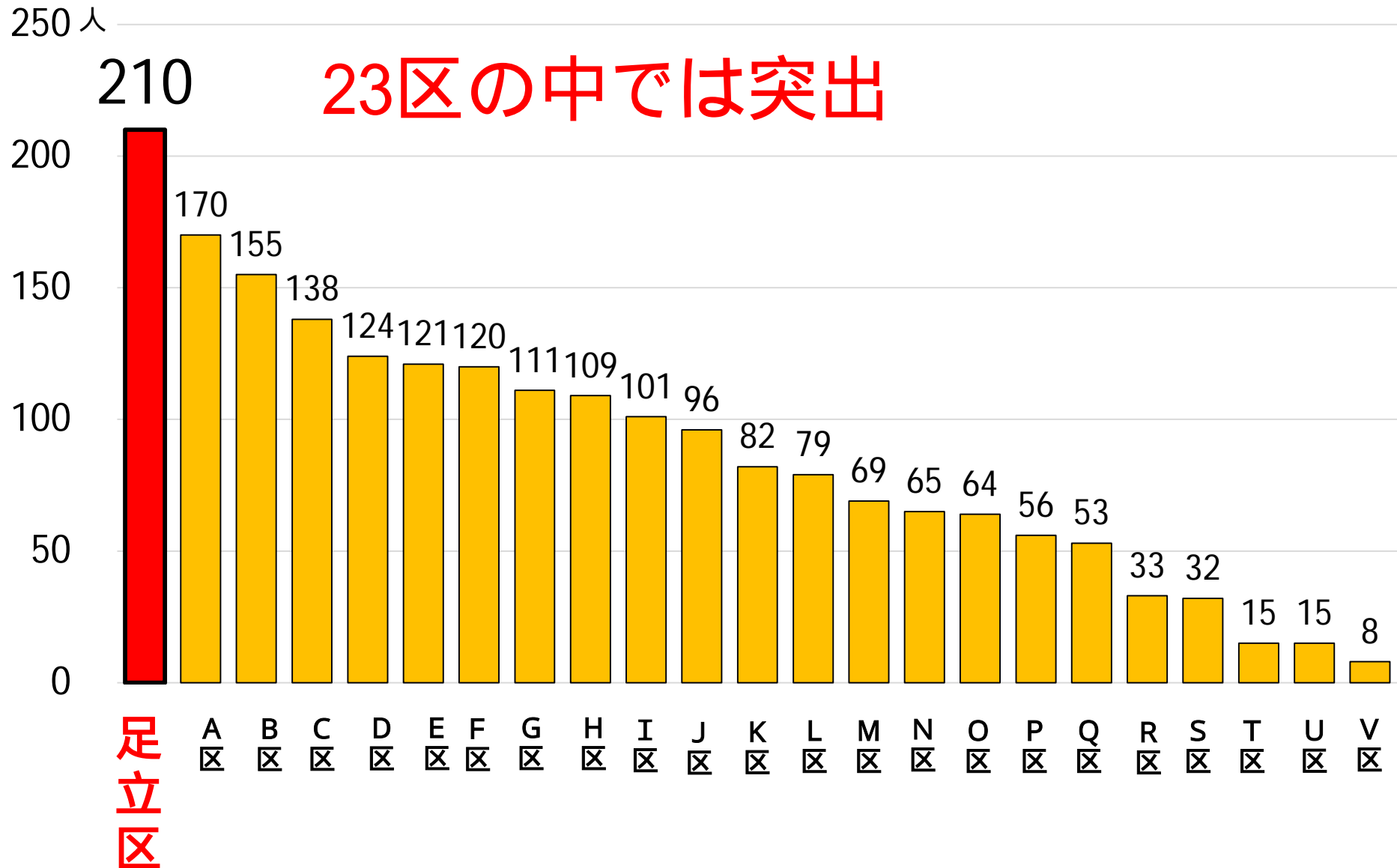
## 中学3年生



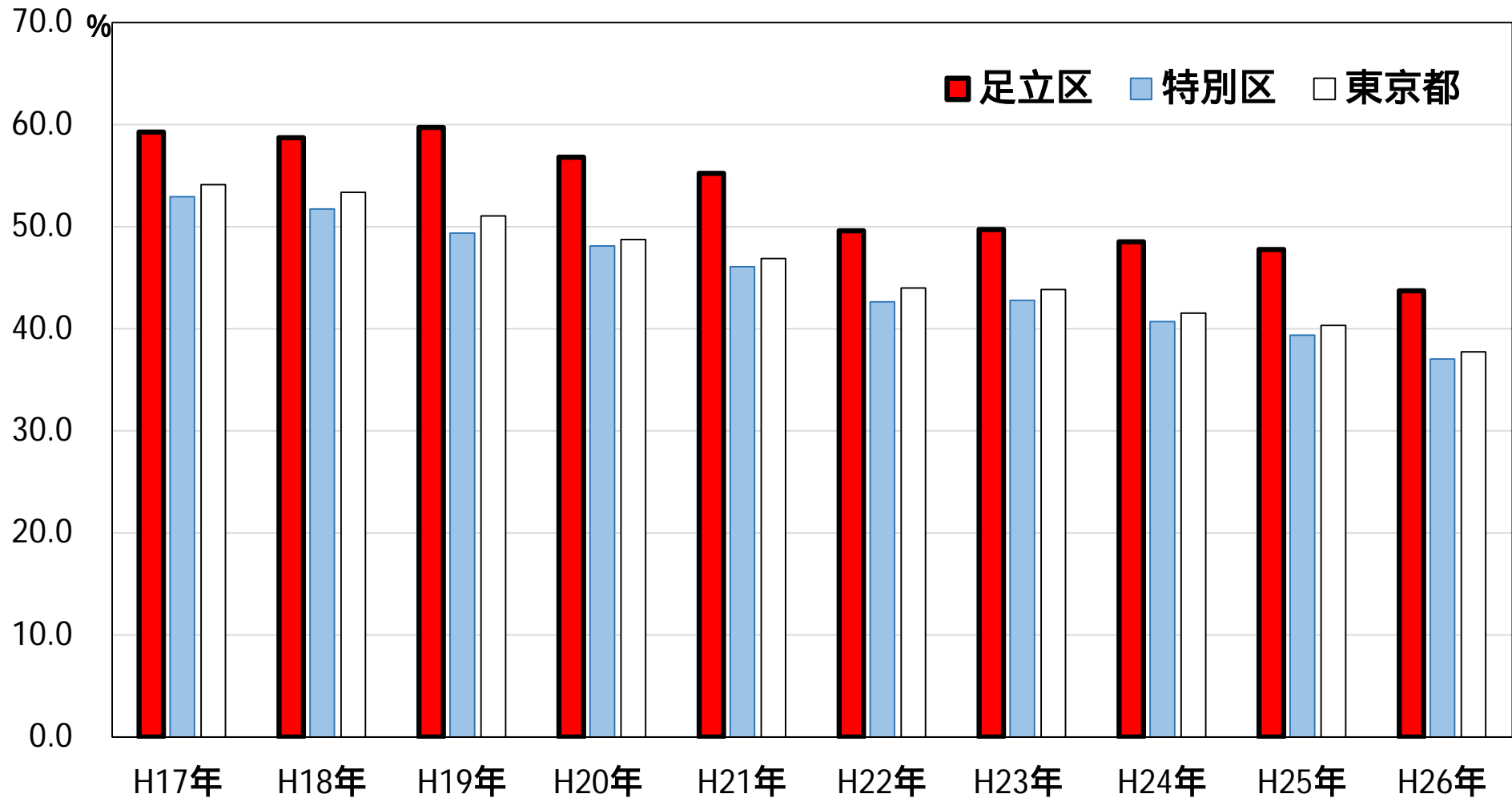
# 区内都立高校の中途退学者の推移



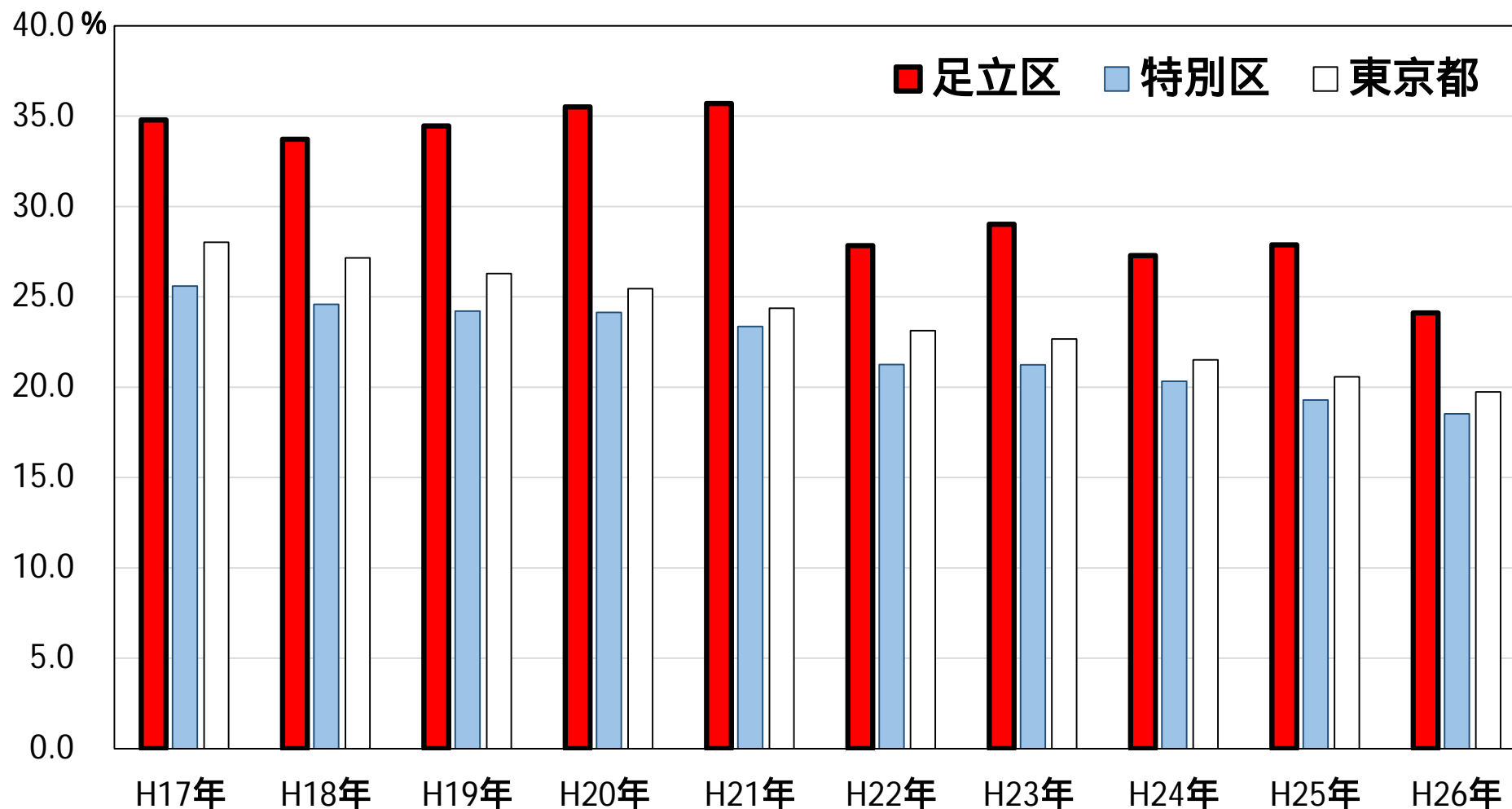
# 23区の都立高校中途退学者数(平成26年度)



# 歯科健診でむし歯ありの判定を受けた 子どもの割合(小学校1年生)の推移



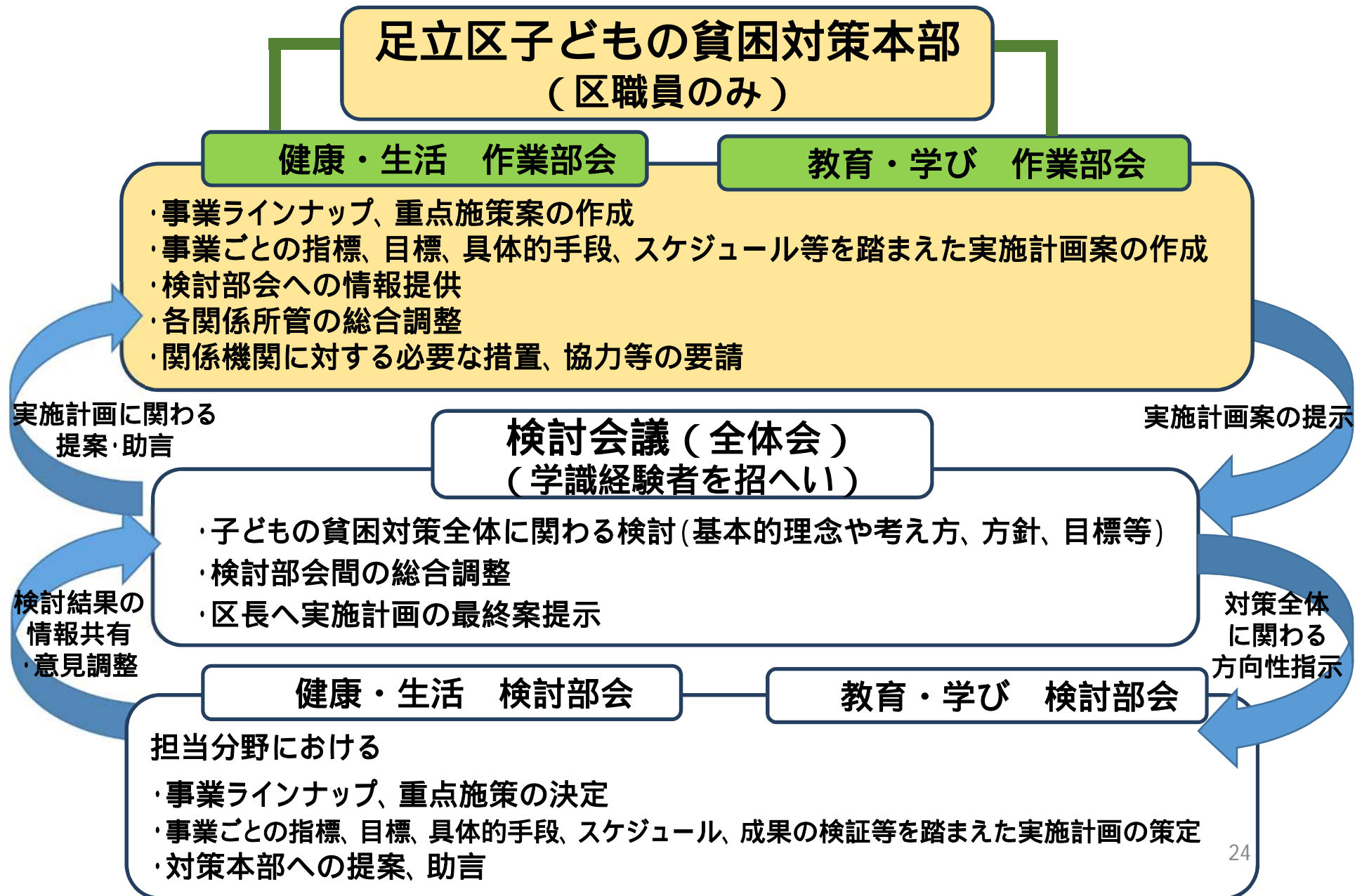
# 歯科健診で**未処置のむし歯**がある 子どもの割合(小学校1年生)の推移





「子どもの貧困対策実施計画」を策定

# 子どもの貧困対策 検討体制





## 子どもの貧困対策 検討体制

### 招へい学識経験者（役職は平成27年度当時のもの）

会議名	氏名	役職
全体会	宮本みち子	放送大学 副学長
	志水 宏吉	大阪大学大学院 人間科学研究科 教授
教育・学び 部会	市川 伸一	東京大学大学院 教育学研究科 教授
	山田 哲也	一橋大学大学院 社会学研究科 准教授
健康・生活 部会	阿部 彩	首都大学東京 都市教養学部 人文・社会系 教授
	藤原 武男	国立成育医療研究センター 社会医学研究部 部長

## 基本理念

全ての子どもたちが生まれ育った環境に左右されることなく、自分の将来に希望を持てる社会の実現

次代の担い手となる子どもたちが「生き抜く力」を持つことで、自分の人生を自ら切り開き、貧困の連鎖に陥らず社会で自立

子どもの貧困を**経済的な困窮**だけで捉えず、社会的**孤立**や**健康上の問題**など成育環境全般にわたる**複合的な課題**と捉え、その解決や予防に取り組む

## 取組み姿勢

全庁的な取組み

「予防、連鎖を断つ」

早期のきめ細やかな施策の実施

学校をプラットフォームに

リスクの高い家庭への支援

NPO等との連携

国、都等への働きかけ

## プロジェクトの3本柱

### 柱立て1 教育・学び

学校を「プラットフォーム」に、教育による学力保障や関係機関との連携など学びの環境整備や居場所づくりなど総合的に取り組む。

### 柱立て2 健康・生活

妊娠期から切れ目ない支援を行うとともに、健康格差の縮小を図る。また、保護者や若年者の社会的孤立を予防する。

### 柱立て3 推進体制の構築

相談機能の連携強化、様々な調査による実態把握・分析、計画の見直し、国・都への積極的な働きかけ、地域やNPO等との連携

## 柱立て1 教育・学び

### 【施策1】 学力・体験支援

基礎的・基本的学力の定着、大学連携による体験事業など

### 【施策2】 学びの環境支援

スクールソーシャルワーカーの配置、育英資金貸付事業など

### 【施策3】 子どもの居場所づくり

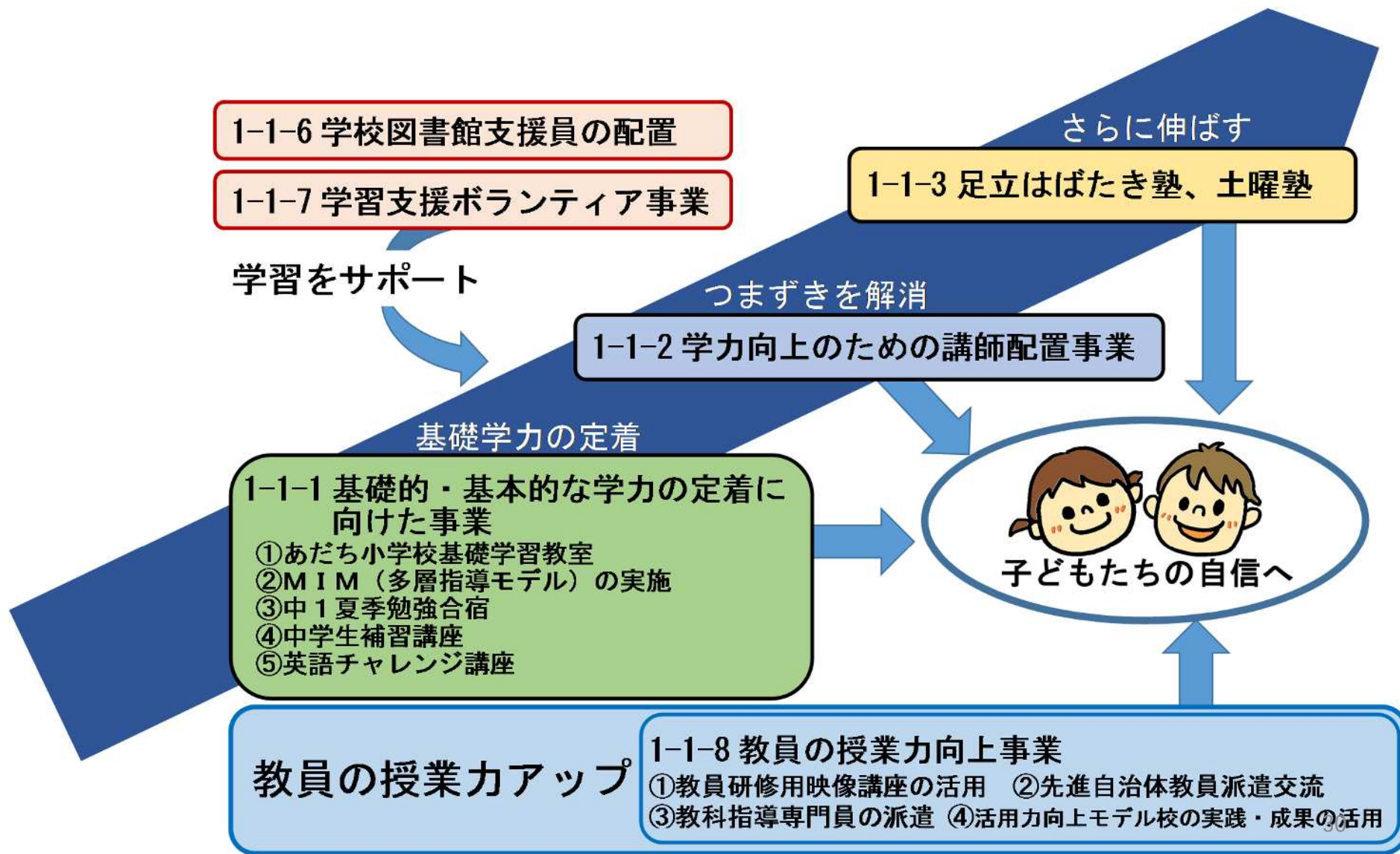
居場所を兼ねた学習支援、児童館、放課後子ども教室など

### 【施策4】 キャリア形成支援

高校生キャリア教育、高校中途退学予防など

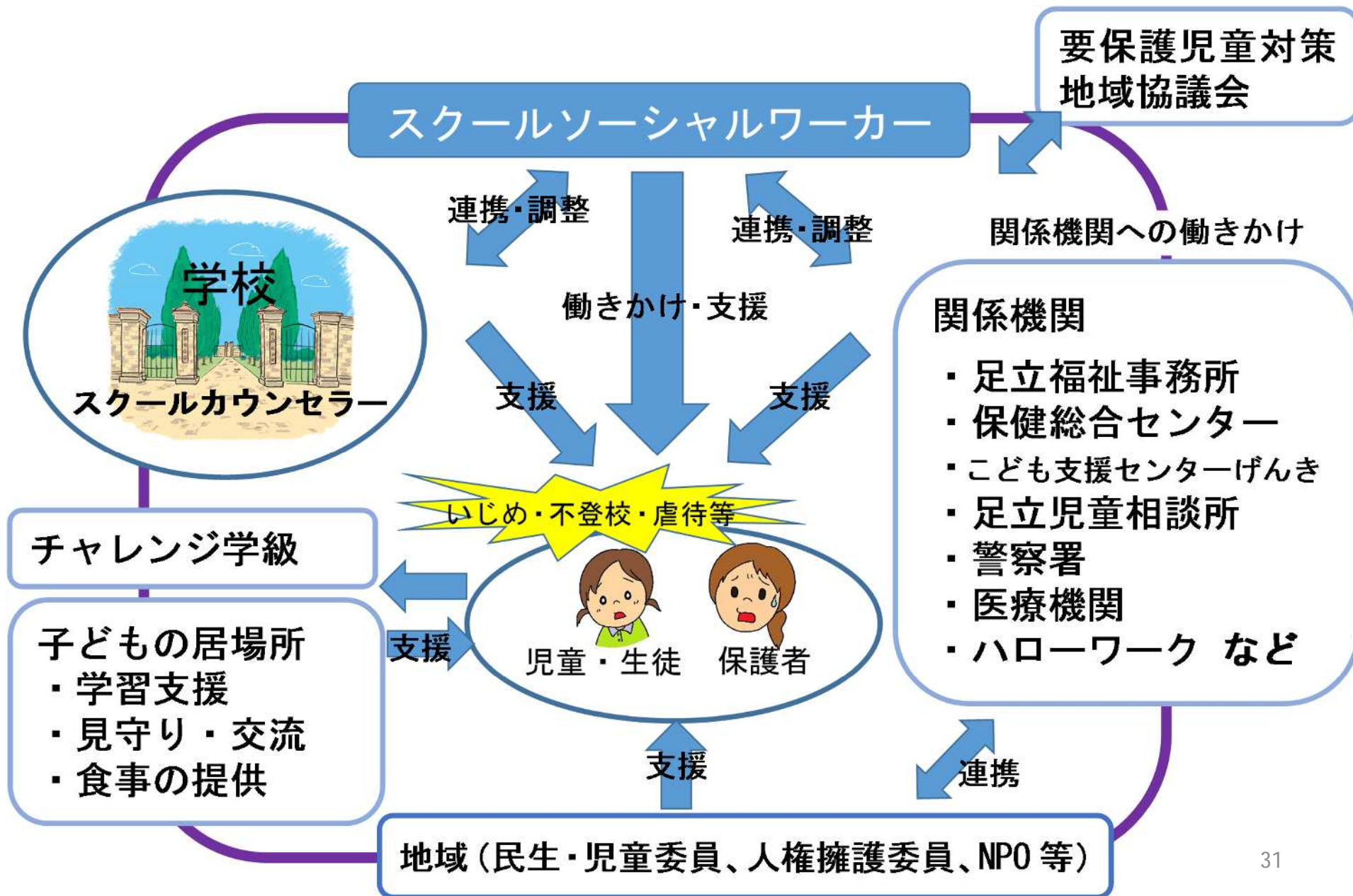
# 【教育・学び】 施策1 学力・体験支援

学習習熟度に応じた取り組み

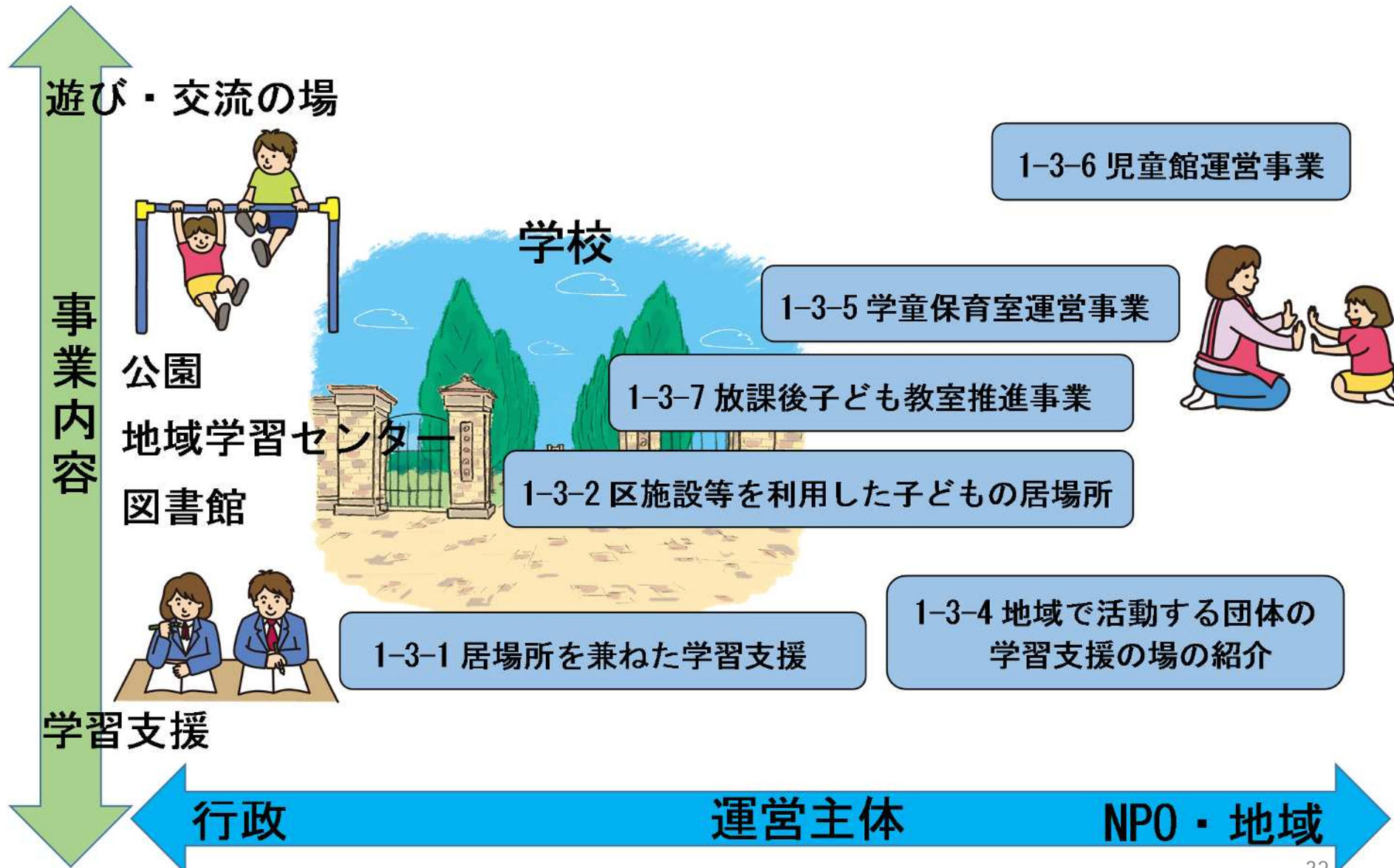




# 【教育・学び】 施策2 学びの環境支援



# 【教育・学び】 施策3 子どもの居場所づくり





## 柱立て2 健康・生活

### 【施策1】親子に対する養育支援

妊産婦からの早期支援、児童虐待防止など

### 【施策2】幼児に対する発育支援

就学前教育の充実、発達課題の早期発見など

### 【施策3】若年者に対する就労支援

「あだち若者サポートステーション」による支援など

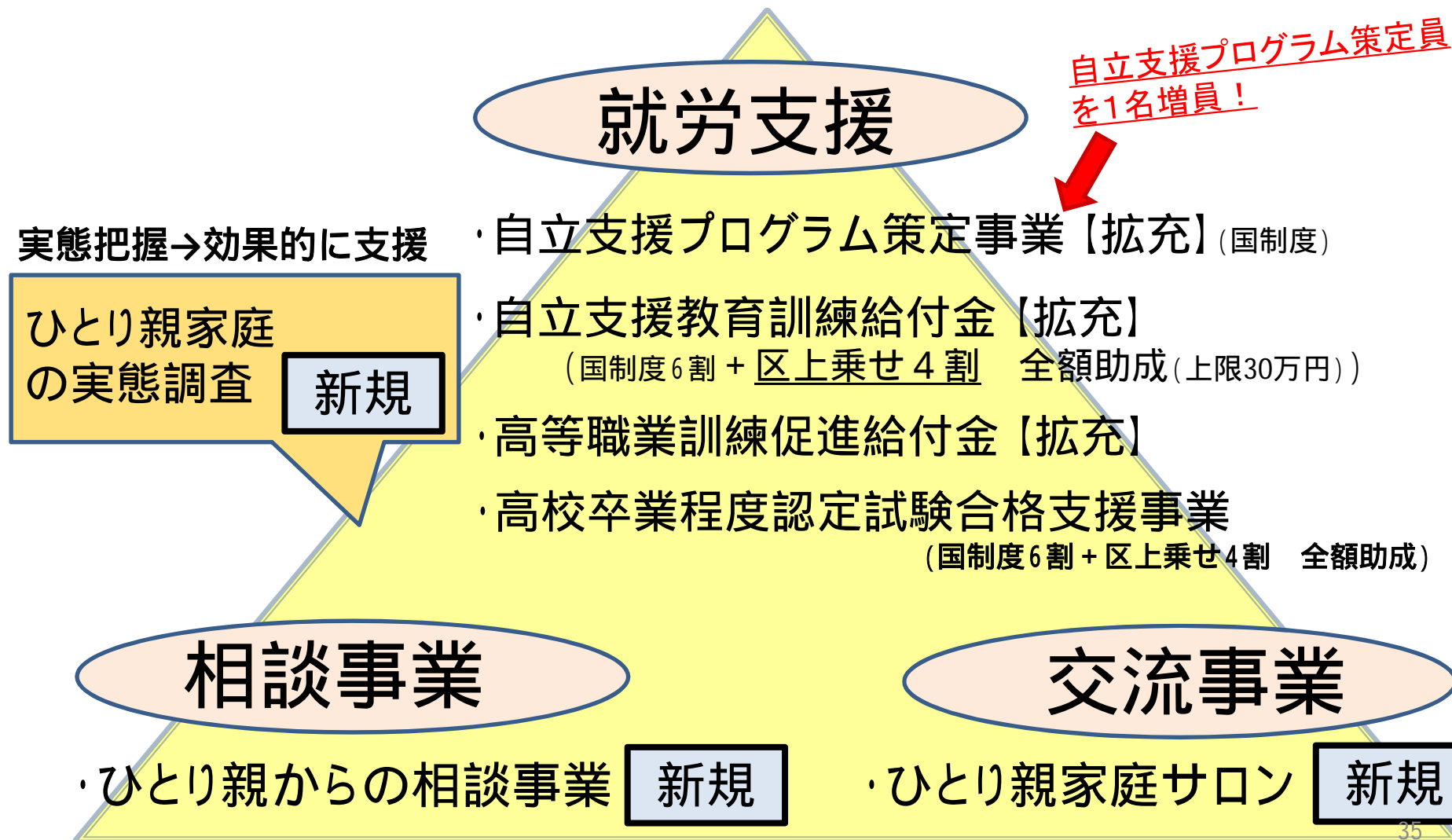
### 【施策4】保護者に対する生活支援

ひとり親家庭に対する就業、交流支援など

# 【健康・生活】 施策1 親子に対する養育支援



## ひとり親家庭に対する支援

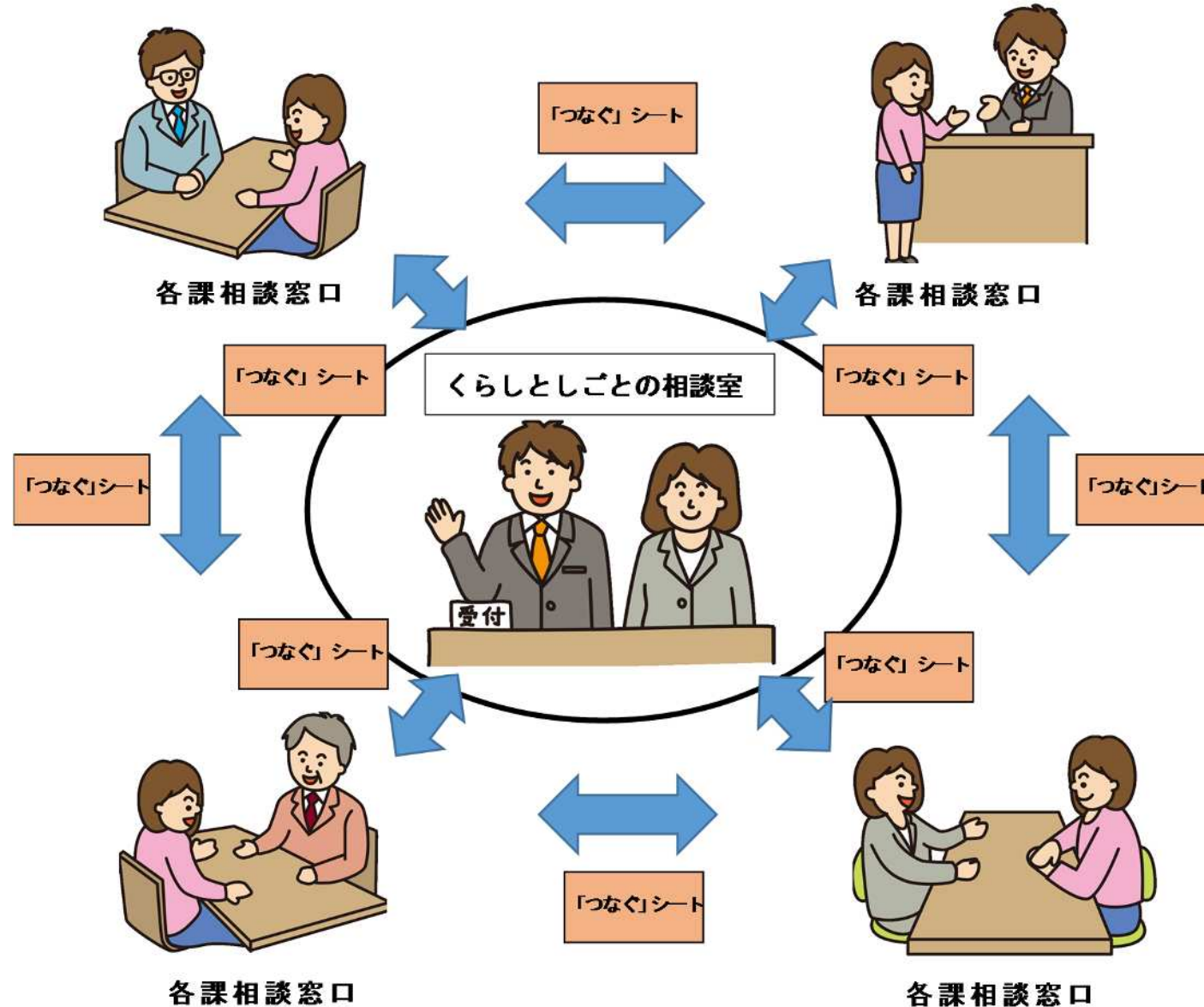


## 柱立て3 推進体制の構築

- ・相談事業の連携強化  
「つなぐ」シートを活用した相談事業の相互連携など
- ・NPO・ボランティア団体等の活動支援
- ・国・都等への働きかけ
- ・調査により実態を把握し、効果的な対策  
子どもの健康・生活実態調査、ひとり親家庭実態調査など
- ・子どもの貧困対策の啓発事業

# 【推進体制の構築】 「つなぐ」シートの活用

「つなぐ」シートを活用し、キャッチした情報を相互につなぐ



## 子どもの貧困に関する指標

- ・「全国学力・学習状況調査」の平均正答率
- ・区立中学校の高校進学率及び進路内訳
- ・区内都立高校の中途退学者数(率)
- ・養育困難世帯の発生率・解決率
- ・歯科健診でむし歯ありの判定を受けた子どもの割合
- ・ひとり親に対する就業支援事業による就業率及び正規雇用率

など **24の指標**

小学校1年生の保護者を対象にした

「子どもの健康・生活実態調査」

から見えてきたこと

## 調査の概要

【調査対象】区立小学校在籍の1年生全員 5,355名

【調査時期】平成27年7月(先行実施6校)

平成27年11月(本格実施63校) 計69校

【実施方法】無記名アンケート方式

区が学校を通じて配付・回収

国立成育医療研究センターが集計・分析

【回答状況】有効回答4,291名 (有効回答率80.1%)

回答者の約90%は子どもの母親



## 調査の背景

- 足立区民の健康寿命が都の平均よりも約2歳短いという健康格差がある
- 主な要因は糖尿病であり、「足立区糖尿病対策アクションプラン」を策定
- 糖尿病をはじめとする生活習慣病予防には、**子どもの頃から正しい生活習慣を身につけることが効果的**

- 国民生活基礎調査によると、現在6人に1人の子どもが貧困状態である
- 足立区では、平成27年度を「子どもの貧困対策元年」と位置づけて、「足立区子どもの貧困対策実施計画～未来へつなぐあだちプロジェクト～」を策定

子どもの健康・生活実態調査を実施

## 調査の目的

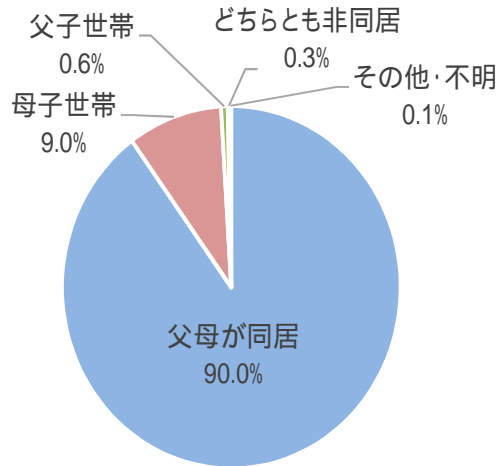
子どもの**健康と生活の実態**を把握すること

子どもの**健康が家庭環境や生活習慣**からどのような影響を受けているかを明らかにすること

子どもの**健康と世帯の経済状態**にどのような関連があるか(媒介要因)を明らかにすること

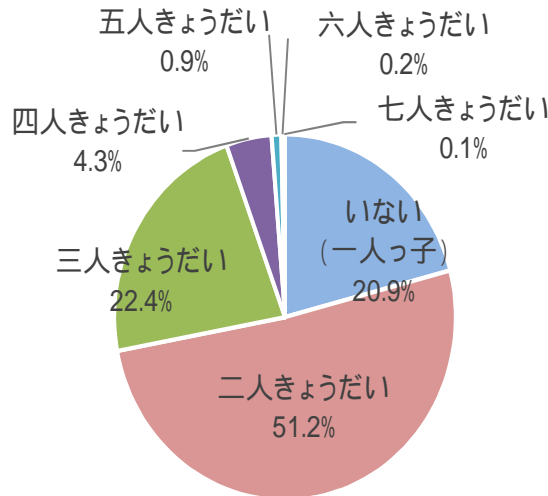
# 調査結果 (世帯の構成状況・経済状況)

世帯状況



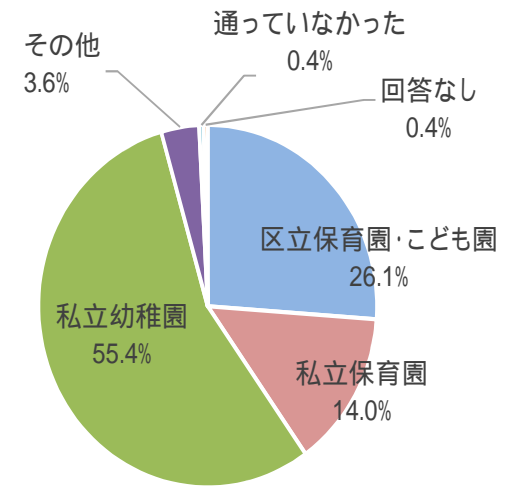
父母と同居の世帯は**約90%**

きょうだい数



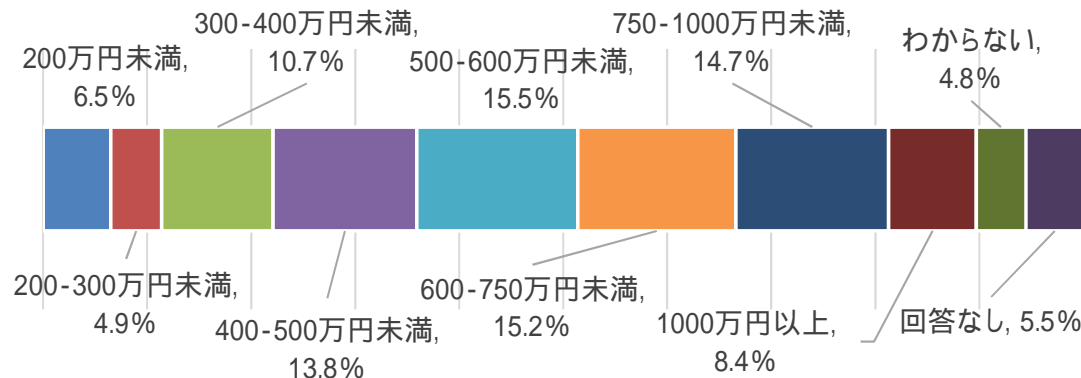
一人っ子の割合は**約20%**

小学校入学前の施設状況



私立幼稚園が**約半分**  
区立保育園・こども園が**約4分の1**

世帯の経済状況



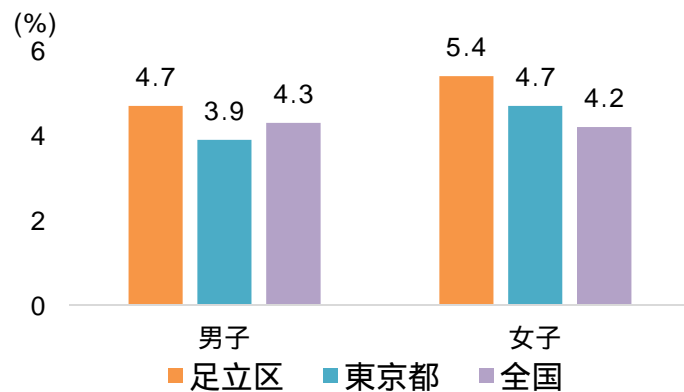
**500～600万円未満 (15.5%) が最も多い**

**300万円未満の世帯は 11.4%**

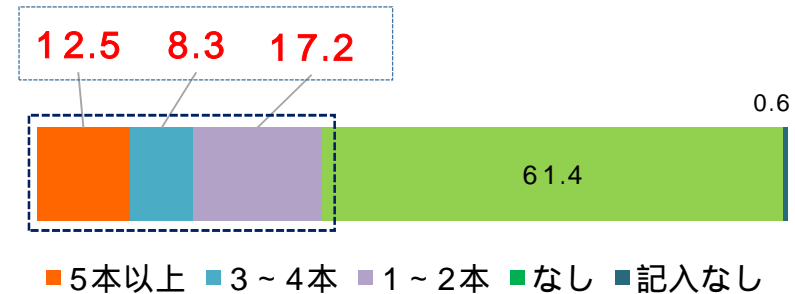
# 調査結果 子どもの健康・生活の状況

## 子どもの健康について

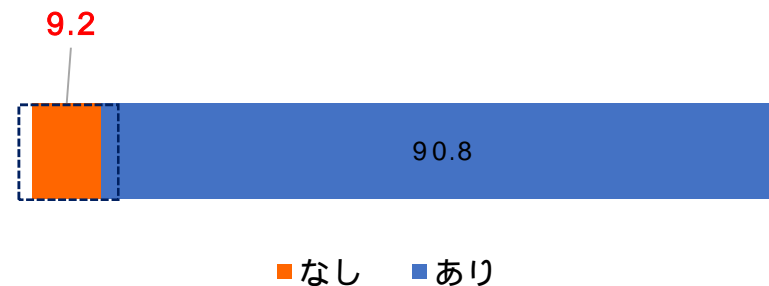
肥満傾向の子どもの割合は、男女とも東京都・全国平均よりやや高い水準です。



歯科健診の結果では、むし歯が1本でもある子どもは、38%です。



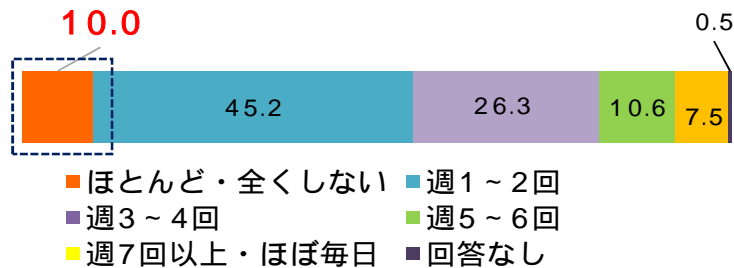
麻しん・風しんの予防接種(自己負担なし)を受けていない子どもは、約9%です。



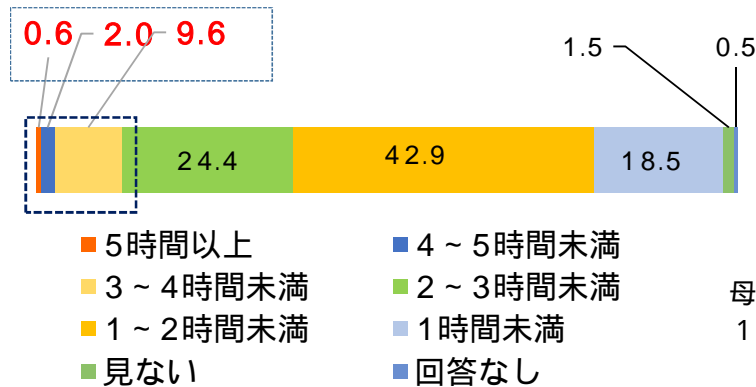
# 調査の結果 子どもの健康・生活の状況

## 子どもの生活習慣について

一週間でほとんど・全く運動しない子どもは、10%です。(学校での運動を除く)



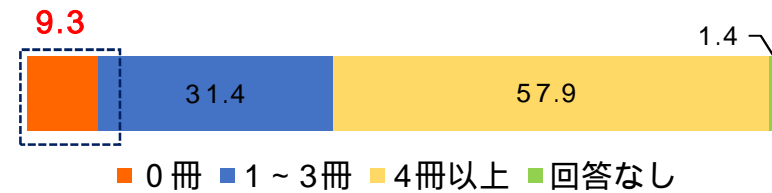
テレビや動画の視聴時間が1日3時間以上の子どもは、約12%です。



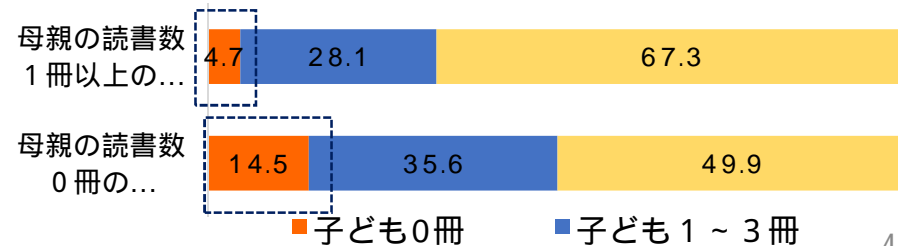
平日の放課後、子どもだけで週1回以上留守番をしている世帯は、約10%です。



最近1ヵ月で1冊も本を読んでいない子どもは、約9%です。



母親が本を読まない世帯は、子どもも本を読まない傾向にあります。



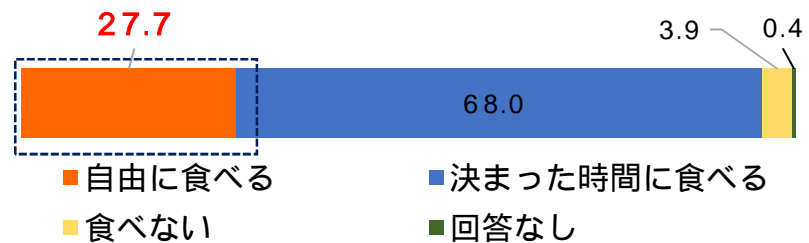
# 調査の結果 子どもの健康・生活の状況

## 子どもの食生活について

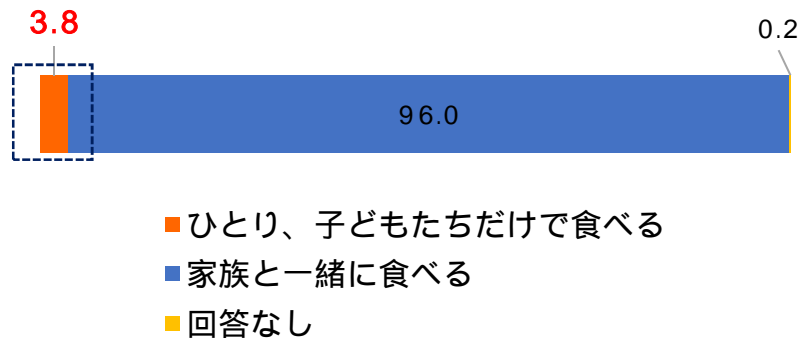
朝食を毎日食べる習慣のない子どもは、約6%です。



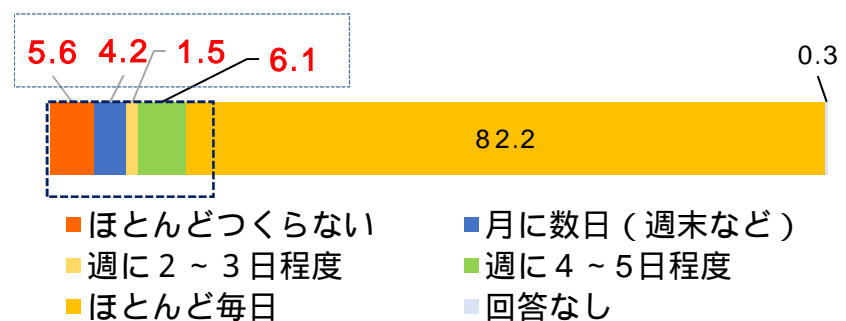
時間を決めておやつを食べていない子どもは、約28%です。



夕食をひとり、または子どもたちだけで食べる世帯は、約4%です。



目玉焼き程度の子どもへの食事作りが毎日ではない世帯は、約18%です。





## 子どもの健康・生活と生活困難の関係

# 生活困難とは

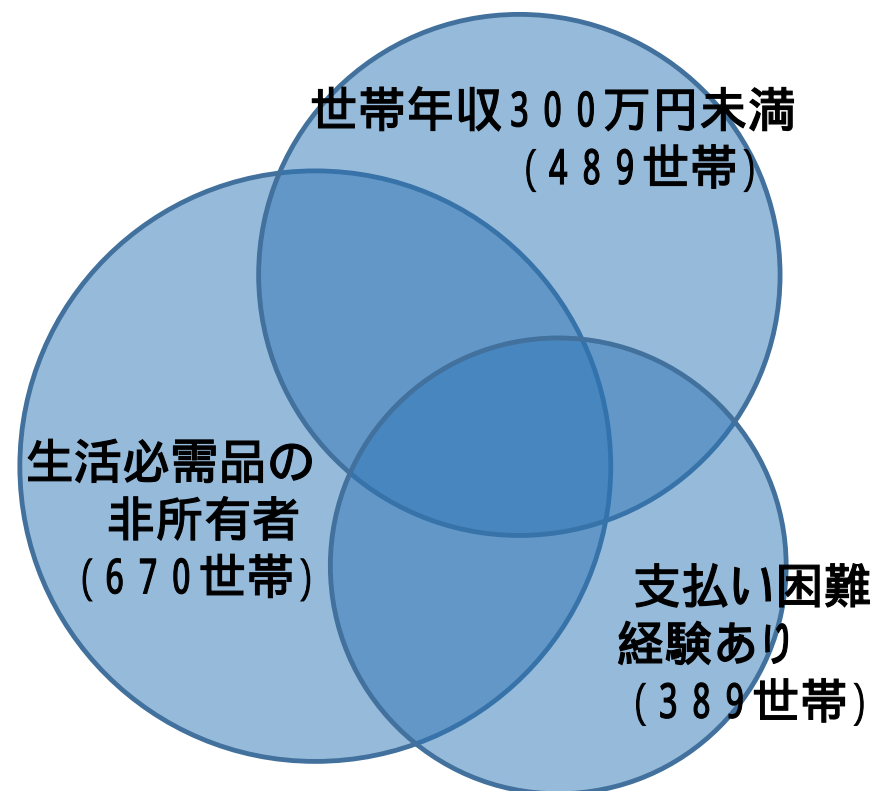
本調査では、子どもの貧困状態を経済的な困窮だけでなく、子どもがおかれた家庭環境全体で把握すべきであると考え、次のいずれか一つでも該当する場合を「生活困難」世帯と定義しました。

世帯年収300万円未満の世帯

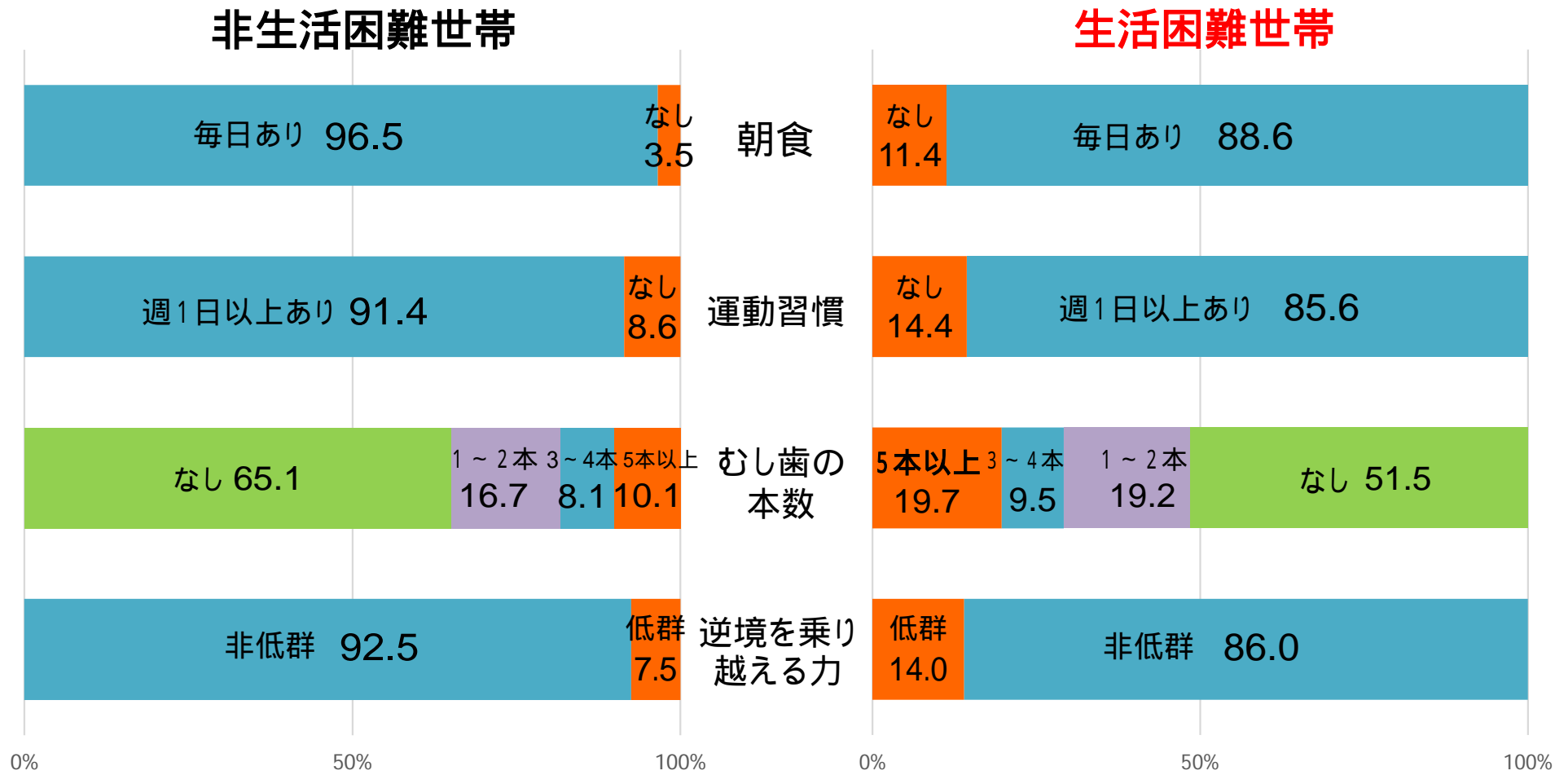
生活必需品の非所有者世帯(子どもの生活において必要と思われる物品や急な出費に備えた5万円以上の貯金がないなど)

水道・ガスなどのライフラインの支払い困難経験世帯

今回の調査の結果、「生活困難」世帯の条件に該当した数は、1,047世帯(24.8%)



# 本調査から見てきたこと

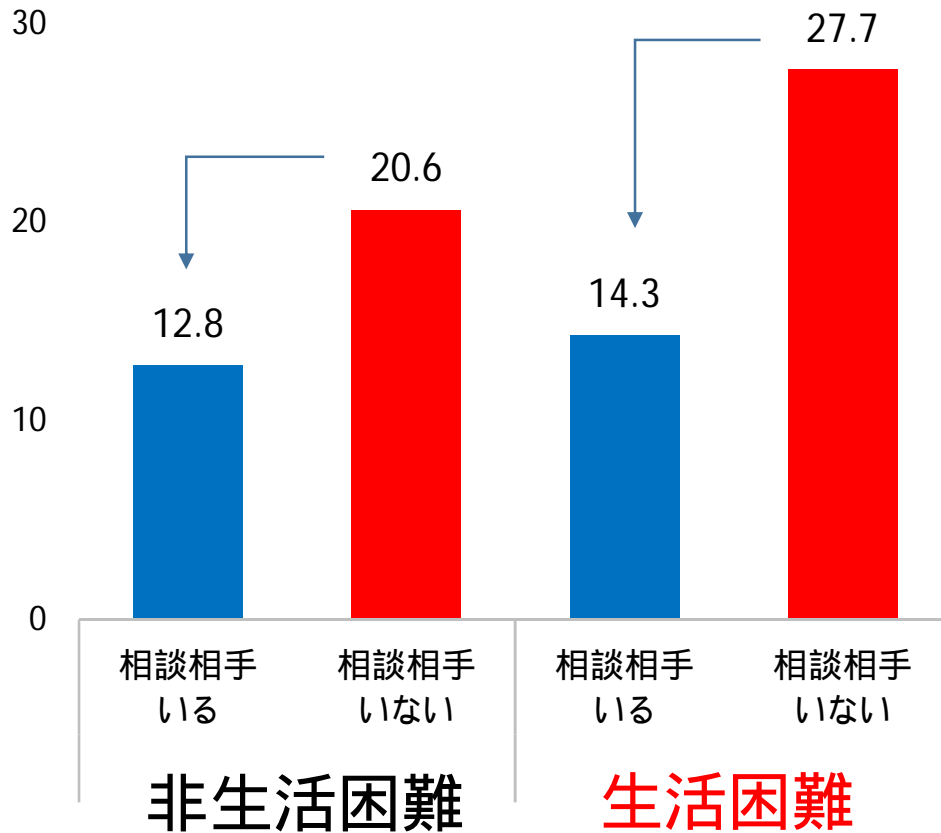


子どもの健康は、  
少なからず**生活困難の影響**を受けている

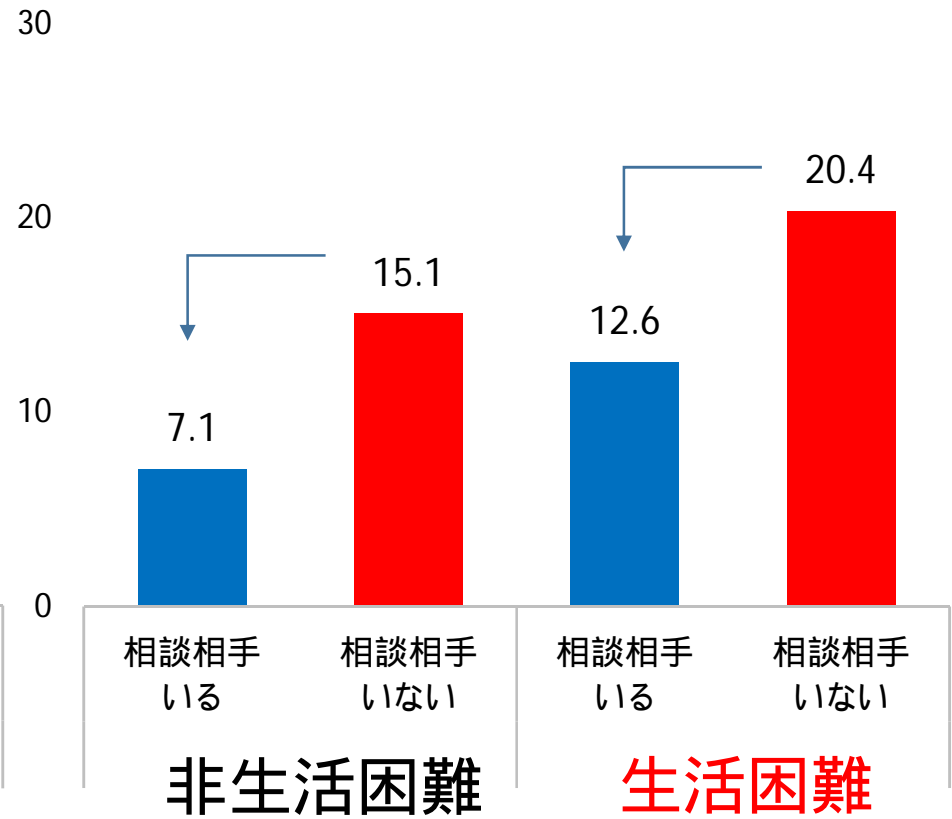


# 本調査から見てきたこと

(%) 思いやりや気づかいなどこころの発達が懸念される子どもの割合

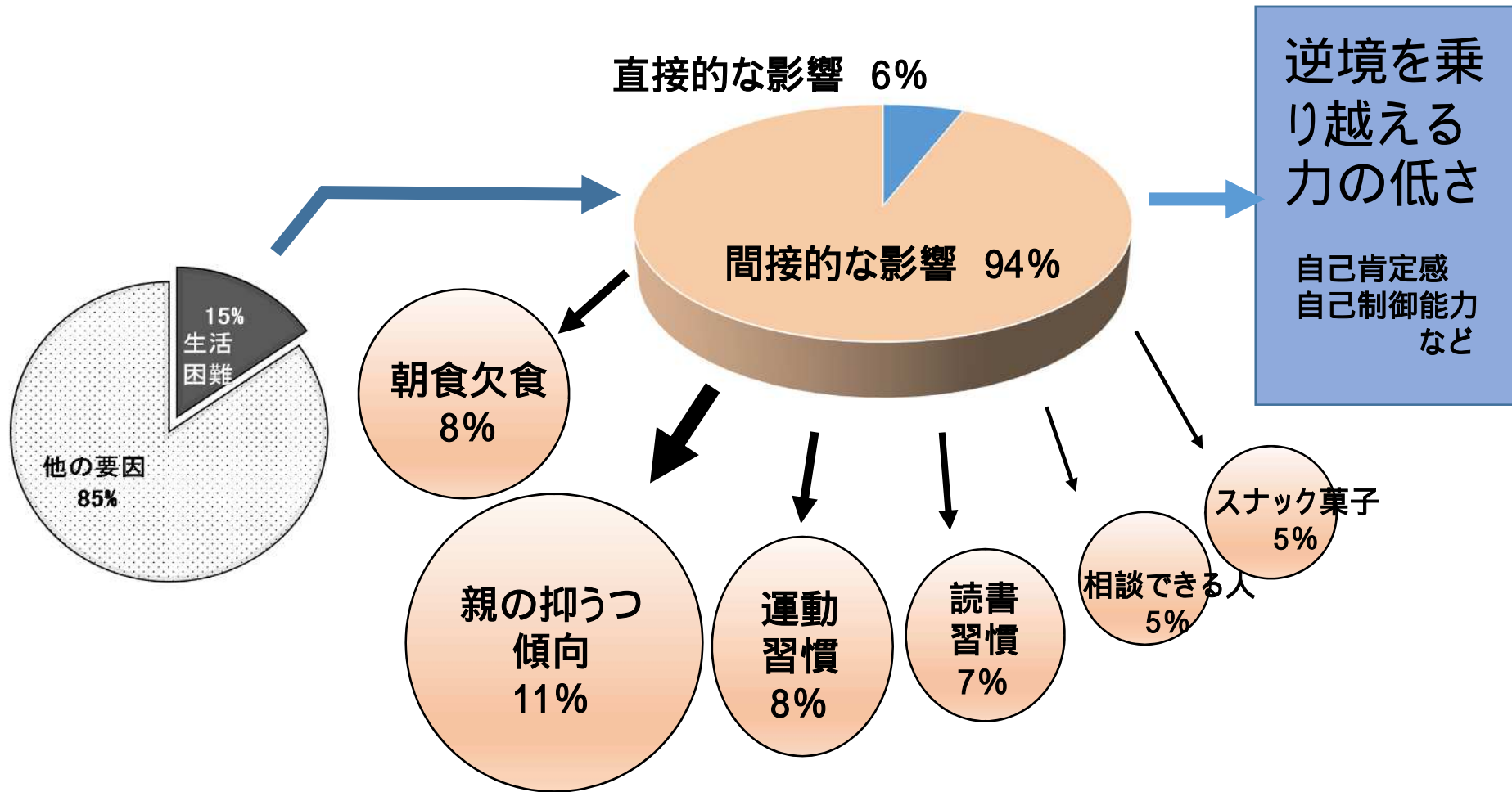


(%) 麻しん・風しんワクチン(自己負担なし)未摂取の子どもの割合



困ったときに相談できる相手がいると  
子どもの健康リスクが軽減する

# 本調査から見えてきたこと



子どもが**運動習慣・読書習慣**を身につけると、**逆境を乗り越える力**を培える

## 本調査から見てきたこと

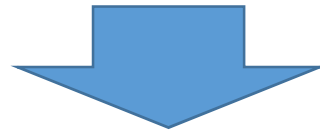
生活困難世帯では、むし歯の本数が多く、予防接種（自己負担なし）を受けていない割合が高い傾向がある

困ったときに保護者に相談できる相手がいると、子どもの健康に及ぼす生活困難の影響を軽減できる可能性がある

子どもを取り巻く家庭環境や生活習慣を変えていくことで、子どもの貧困の連鎖を軽減できる可能性がある

子どもの運動や読書習慣により、生活困難な状況においても逆境を乗り越える力を培える可能性が見られる

# 調査結果を受けて



## 「未来へつなぐあだちプロジェクト」に反映

- 子どもを取り巻く**家庭環境や生活習慣を変えていくこと**によって、できる限り**生活困難の影響の軽減**を図る
- 将来の**夢や希望を叶える大切な土台**となる子どもの**健康を守り育てる施策の充実**を図る